



萬寶新書

初篇

洋学文庫
文庫 8
B 68



宇田川

未十月十日發行



蕃書調所改

弁言

原本ハ。荷蘭僉特坦雕鐫シカトガアムルと名セ。諸般の術藝
雜記製作方法等を載セ。頗簡便有要の書なる可故に予業
間一々譯述して筥箴ニ載セ。然もとも。其事太泛博。彼に便
し。我に迂。彼に利用ふし。我に無用のもの。亦鮮し。然
に亡友杉田成卿。萬寶玉手箱の著あり。蓋亦畧原を此に資
惜矣。同氏書を詳し。又次篇の擧る。是に由て。予今嘗て譯
る所の舊稿を校し。其内便要ふし。我用に近き者を選りて
割刷し。附也。其編次の如きハ。概玉手箱の體裁ニ倣ふと云。

安政己未孟冬

宇田川瀛識

周版之書之末之全分
湖本之祖版之

蕃書調所改

弁言

原本ハ。荷蘭^{オランダ}特坦^{トタン}雕^{トウ}鷓^シシク
雜記製作方法等を載せて。頗
問一々譯述して。篋^カ箴^{セン}ニ載^シキ
一。我に迂。彼に利用^{リヨウ}ス。一
に。亡友杉田成卿。萬寶玉手箱
惜矣。同氏^{ドウシ}虫^{ムシ}を^シ辞^シ。又次篇の
る所の舊稿を校^{キョウ}。其内便^{ベン}画^{ガク}
割^{カク}刷^{シヤ}ニ附^{ツキ}キ。其編次の如^カキハ。

安政己未孟冬

本草綱目

萬寶新書初篇目錄

- 一 果類を久しく蓄ふる法
- 二 亞落路粉の試法及び用法
- 三 醋を善く貯ふる法
- 四 懷中醋を製する法
- 五 澄白琥珀假漆を製する法
- 六 琥珀を釘著する法
- 七 風雨鍼驗法
- 八 卧褥に用る羽毛を淨製する法

目錄

一

九	烘 ^{ヒキ} 碱 ^{ケン} を貼 ^{ツケ} る ^ル 法
十	釘 ^{チウ} 書 ^{ショ} 工 ^{コウ} の用 ^{ヨウ} ゆ ^ル 金 ^{キン} 液 ^{エツ} の法
十一	書籍 ^{シヤク} の微 ^ミ を防 ^ト ぐ ^ル 法
十二	樹木 ^{ジュ} を植 ^ウ む ^ル に石 ^{シヤク} 灰 ^{カイ} を用 ^{ヨウ} ひ ^テ 利 ^リ 益 ^{イキ} を ^シ る ^ル 法
十三	火 ^カ 傷 ^{ケド} を治 ^ナ す ^ル 法 <small>又一法</small>
十四	蜂 ^{ハチ} 螫 ^{セツ} の痛 ^{イタ} を治 ^ナ す ^ル 法 <small>又一法</small>
十五	三 ^{サン} 鞭 ^{ベン} 酒 ^{シュ} を擬 ^ニ 製 ^ゼ する ^ル 法
十六	蘇 ^ソ 魯 ^ロ 林 ^{リン} 水 ^{スイ} 漂 ^{ヒヤウ} 白 ^{ハク} 水 ^{スイ} を製 ^ゼ する ^ル 法 <small>又一法</small>
十七	葡萄 ^{ブドウ} を貯 ^チ 蔵 ^{ゾウ} する ^ル 法
十八	鶏 ^{トリ} に多 ^{オホ} く卵 ^{ラン} を生 ^ナ ま ^ス る ^ル 法

十九	水 ^{スイ} を滌 ^チ す ^ル 法
二十	玻 ^ホ 璃 ^リ 壺 ^ウ を淨 ^{ジヤウ} 洗 ^{セン} する ^ル 法
二十一	鹽 ^{エン} 藏 ^{ゾウ} 食 ^{シキ} 物 ^{モノ} の鹽 ^{エン} 氣 ^キ を脱 ^{ダツ} する ^ル 法
二十二	義 ^ギ 布 ^フ <small>祝^{シユク} 礮^{カウ} 加^カ ふ^フ 捏^{ネツ}造^{ゾウ}せ^ルる</small> 塑 ^ソ 像 ^{ゾウ} を堅 ^{ケン} 固 ^コ よ ^ス る ^ル 法
二十三	火 ^カ 腿 ^{タイ} 及 ^キ ひ ^ス ス ^ベ ッ ^キ <small>家^カ 猪^{シウ} を貯^チめ^ルる</small> 法
二十四	木材 ^{モク} 材 ^{サイ} の腐 ^ク 朽 ^{コウ} を防 ^ト ぐ ^ル 法
二十五	木材 ^{モク} 材 ^{サイ} を接 ^{ケツ} 著 ^{シヤク} して能 ^ノ く ^ル 水 ^{スイ} 濕 ^{シツ} 日 ^{ニツ} 境 ^{キヤウ} め ^ル る 鯨 ^{ケイ} 膠 ^{カウ} の法
二十六	木 ^キ 具 ^キ に光 ^{クワ} 輝 ^キ を與 ^ヨ ぶ ^ル 塗 ^ツ 劑 ^ジ の法
二十七	隱 ^{イン} 見 ^{ケン} 紙 ^シ を製 ^ゼ する ^ル 法
二十八	赤 ^{シヤク} 墨 ^{ボク} 汁 ^{ジュ} を製 ^ゼ する ^ル 法 <small>又一法</small>

二十九

綠墨汁を製する法 又一法

三十

黄墨汁を製する法

三十一

青墨汁を製する法

三十二

利諾布に記號を印する墨汁の法

三十三

記號墨汁を製する法

三十四

久を経て更變せしむる墨汁の法

三十五

亞鉛上に書する墨汁の法

三十六

象牙に鍍銀する法

三十七

黄色に為り多し象牙を澄白にする法

三十八

イ、グト痛を治する法

三十九

齧齒痛を鎮止する法

四十

陥凹齧齒痛を鎮止する法

四十一

解熱劑の法

四十二

燥道を用て黄銅に亞鉛を鍍する法

四十三

濕道を用て銅及び黄銅に亞鉛を鍍する法

四十四

銅緑の毒を防ぐ法

四十五

寒脱疽を治する法

四十六

無烟の燈心を製する法

四十七

草の水を浸漬せしむる法

四十八

里没奈埵を製する法

四十九 利諾布リノブの水を浸淫せしむる法

五十 鉛ヒと錫スを鍛ヒむる法

五十一 引火奴ツケ 自然に火をを製スむる法

五十二 陶器を接著ツケする膠カの法 又法 又法

五十三 木石玻璃を接著ツケする膠カの法

五十四 荏油シラ假漆カの法

五十五 鍛金ヒの邊緣ヘリ 等類縁を淨刷ツむる法

五十六 健胃苦味酒ケンイの法

五十七 健胃酒ケンイの法

五十八 胃瘕イを鎮止ツむる法

五十九 馬德辣酒バタクを製スむる便法

六十 大理石マリの彩飾サイする法

六十一 速スに熔解トクする合金ゴウの法

六十二 稚樹ソウに生スむ苔蘚コケを除く法

六十三 依蘭苔飲イランの法

六十四 無炎ムエンの夜燈ヤチを造ルる法

六十五 蝨血シを止ムむる法

六十六 油アブを貯藏チする法

六十七 油アブを淨清ツする法

六十八 果類クワを貯藏チする法

六十九 オホテルドフを製する法

七十 牛膽を製煉する法

七十一 馬の鞍傷を治する法

七十二 馬足の痺麻質痛を治する法

七十三 描画に用る透明紙を製する法

七十四 水記紙を製する法

七十五 圖画を彩色する為に紙上に塗る膠水の法

七十六 パルケメント紙透明に用るに用る影模を製する法

七十七 鹽肉の法を製する法

七十八 植物を久しく保有する法

七十九 植物の葉蟲を驅除する法

八十 動物植物を好く保有する法

八十一 植物の汚斑を洗ひ除く藥水法

八十二 鏤版の圖画を采色する法

八十三 白金綿を製する法

八十四 禽類の説

八十五 髪を生かすホマーテの如き者の法

八十六 磁器を接著する膠の法

八十七 玻璃壺及び陶瓶等を淨洗する法

八十九 鐵及鋼の鏽を防ぐ法

九十 玫瑰蜜を製する法

九十一 鞋を塗りて光澤を生ずる塗料の法

九十二 鞋を塗りて水の浸透を受ざる塗料の法

九十三 美艷膏の法

九十四 美艷香水の法 佛蘭西の法

九十五 銀を磨光する粉劑の法 又一法

九十六 車駕に装著する革に光澤を與る塗料の法

九十七 機盤を活利にする塗劑の法

九十八 絨布を汚せる脂油を除く法

九十九 外氣に曝觸する木材を聚る塗料の法

百 海綿を漂白する法

百一 麥朮せる食料の滋養に益何る説

百二 石炭の碎屑を焼く法

百三 石膠の法

百四 煖室火箱或竈窯等の破隙を塗る填塞料の法

百五 鐵の填塞料の法

百六 磨筆を製する法

百七 齒を磨白する法

百八 ハハランド名の磨齒粉の法

百九 家猪肉を貯藏する法

百十 粗大の鐵具に塗る漆料の法

百十一 焚焼を防ぐ假漆の法

百十二 褐色假漆の法

百十三 護謨會刺斯知加の假漆を製する法

百十四 銅或他の金屬に塗る假漆の法 尋常落古 微澄亮の落古 精

黄色落古 淡黄色落古 鮮黄色落古 鮮绿色落古 帶黄色落古 黄金色落古

百十五 彈力ある假漆の法

百十六 鐵器に塗る假漆の法

百十七 錫及び白金を鍍する法

百十八 汚斑を除く法

百十九 猩紅絨及び天鵝絨の汚斑を除く法

百二十 車旋船暈を治する法

百二十一 黄蜂の螫痛を治する法

百二十二 野生の禽畜殺する者を貯蔵する法

百二十三 樹木を害する野獸の患を防ぐ法

百二十四 凍瘡を防ぐ軟膏の法

百二十五 酒痕の汚斑を除く法

百二十六 鐵具に塗る填塞料の法

百二十七 鐵具に光輝ある黒色を與る法

百二十八 鐵器を堅剛にする法

百二十九

穀類及び蔬菜を播種する法

百三十

馬鈴薯を用て錫布水を製する法

百三十一

透明なる錫布を製する法

百三十二

獸毛或植材類の腐朽を防ぎ久に地を治する法

百三十三

傳染病を豫防する法

百三十四

蕁麻の藥能何の說

百三十五

木及び石の縫塞料の法

百三十六

鴿を飼て好んで己の棲房に歸らしめる法

百三十七

氣燈盤を用る蒸料の法

百三十八

黄金を淨潔する法

萬寶新書初篇

美作

宇田川瀛興齋譯述

一 果類を久しく蓄ふる法

凡、果類を久しく貯藏せしむるハ、秋分務めて長く其枝上より有
多しき後、是を收め、其外面を善く拂う。乾燥せし淨砂
中に毎段累積して、燥處に貯ふ。○此調護能く其法を得しハ、
次年の夏分を終らして、亮し其態を變せし。其味を損せし
むとす。○英吉利、挽雅及び諸地にて此蓄藏法を稱用也。

二 亞落路粉の試法及び用法

亞落路粉ハ「マランタ、アレンゲナカ」草名案に蘭名「インゲイ」
セバ、ルオ、ルテル、印度産野葱の澱粉よりて。諸般虚衰の患者小用ひて消化し易く。且、滋養の功有り。○此物毎に不正の物を交へ。或ハ麵粉、馬鈴薯粉及ハ他の糊粉、砂谷粉類の如き。全く他の成分を用て調和し偽造もその有り。○ラムパチス名人の説に據きハ、麵粉を用て偽りしものハ、水を加へて搗攪ししハ、粘稠なる糊質分も出るを以ておれを知る。小麦或ハ馬鈴薯の糊粉を和し偽りしものハ、稀硫酸を加へて煮沸せしむるハ、小麦分ハ帯黄褐色の粘汁を呈す。又亞落路ハ酒黄色よりて。馬鈴薯糊分

ハ。一種未熟なる蕪菁は固有せる如き臭氣を發縦す

亞落路粉を用る良法ハ、此粉一分に水一分餘を和し攪混して泥と成し。而る後、おきに水二十分を加へ、熬て十六分と為し。得る所の粘汁を、患者の稟性は隨て。適宜に甘乳汁、砂糖等を擇ひ和し用ふべし。

三 醋を善く貯ふる法

醋は其精氣を失はざるを、久しくおきを保つよハ、キス、ケ、ス痴醋に酒酸の發酵を促す者。設ハ焼酒、砂糖、交儼、干蒲萄、酸性酒の如き物少許を加へ、蒸て些少の釀母を和し發酵せしめて、醇良と成し、瓶し、おきを製するの間、善く大氣を通暢し、氣中の酸素

をして能く其液中に竄入せしむる

四 懐中醋を製する法

細き酒石適宜を取り精醋を以て潤かす。おきを乾かし。而して後復細末と為し。再び醋を以て潤かし乾かし。大凡四五回ふして其物を密塞小玻璃罎に貯ふ。○即時に流動醋を要するに方ては。此末一分に六倍の水就中白酒を和し。五密担篤の後酸液中に溶けさる酒石を沈降せしめ。用以供也。

五 澄白琥珀假漆を製する法

舊秤一介の荏油を新しき壺に盛り。其正中に一條の杆を直立せしめて其油面の高さを測り。又同量の清水を其中に加へ

入也。復杆を以て其高さを定めて。案に水は重くして其下底に沈み油は軽くして其上面に

浮ひ。白分きて二段とある。おきを火上に致し。おんべる。綠礬或ハ丹礬。全

密陀或ハ鉛丹各舊秤一。羅度を合せ。棉布の袋を容きぬを。

水に懸けしむる。恰好其油中懸垂し煮し。○油上

泡沫を浮むときハ其泡を抄ひ除き。務めて緩々に熬て。其水

蒸發し盡るを度とし。おきを止む。但し杆を用て測り其水の

盡るを知るあり。

さて別に適宜の分量。設ハ舊秤八羅度の粉細淨白琥珀及ハ同量の粉細ゴム、コバルを合せ。淨き銅壺或ハ新しき土壺にて熔解せしむる。○但し。先銅壺ハ熾紅し。土壺ハ極めて熾

熱るゝ志えて後。右の二物を齊しく壺中へ投し。悉く熔解して水の如く滴漚せしきに至るまで。絶へず鐵棍を以て攪和せしむ。○此度に至りて。前に記せる油割を熱せしむ。徐々に其中へ瀉し入れ。亦善く攪和せしむ。此内換てよく火度に注意に注意良とせ。是に由て極えて。○此に於て壺を火より下し。其割を美麗の佳品を得るあり。○此に於て壺を火より下し。其割を稍冷あふ志え。其尚温なる間に。適宜の底列並帝那テイナを徐々に注加し。手を止むを攪和し。遠度に出るを稀せしむ。○兩日を経る後。此假漆を棉布ふくに濾し貯ふ。○此假漆を以て木具を髹人と欲せば。先其器を善く磨き平滑と成して。此を塗り。乾けし再び復塗りし。○全く堅固に

乾ける後。スクールルビス及び水を以て磨き。漸次に細りき。浮石及び水を用。最後にトリールベル粉の及び木油を以て磨く。○此方法を遂げし後。尚麵粉粉或ハ髮粉髮に角石代用を以て善く淨摩して。其本原の光澤を得るあり。

六 琥珀を軒著せる法
乳香を光燭上ふて徐々に熔らし。軒著せんと要する所の琥珀の破口を炭火上まて稍煖を多し者に赤色を塗りて。固く摩托し。保持して冷定せしむ。○此軒藥ハ頗精好ふして。且殆其接際を察せしむるふ。

七 風雨賊驗法

風雨鍼即古に所謂候氣儀ハ常に鉛直に固定し若くハ移動
せしつゝさるゝ壁面ハ懸掛せし。

筒中の水銀朝第九時 我晝夜半分時朝 前後に最高の處ニ在

りて其後纔に降り晚に向つて復稍外るハ天氣連晴を報せ

然りとも日中に升り夜中若くハ晨に降るハ天氣更變不同

を知る○夏天熱日暴雨將に來るときハ水銀上

り雨已に來きハ復下降せ○冬天水銀上升きハ暴冷を報

せ外て降るはれハ沍寒釀雪を報せ降るハ消雪を報せ○水

銀の升降定まらば晴雨驟に更變せ又稀に二三日續いて升

降ありて天氣亦久しく定まらば何り○水銀の移動

定まらばハ亦同様の兆を報せ○徐風殊に南風及ハ第十

月又ハ十一月案に我九月の天晴る時十月の頃に於て水銀下降せ

るハ驟雨或ハ雪を報せ○一雨の後水銀驟に上升し殊に此

亦於て南風に轉るときハ近日仍多く雨何を知る○月

暈ある時に於て水銀下降るハ必雨又ハ雪あるを報せ○

正南風若くハ南西風の時に方て水銀下降るハ真に雨の

微とき○晴日早天に於て一雨の後風南方より西及ハ北に

廻り遂に東に轉るときハ必美日と成るを卜せし○美

天打續き且北風ある時水銀已に高處に在りて仍且外るハ

風西に轉ると何れの内ハ必雨あるを卜せし○南風

して連日雨天ある時に於てハ。水砒高く升り。風又北に轉せ
り。内ハ。快晴を期を危りら。○曉天甚く。且、雲霧速に空
を覆ひ。水砒降るる。動りゆるときハ。同日仍雨若くハ雪
あり。○風差北に偏し。水砒降れハ。雨及ひ連日多雨を報
せ。○雨後風南より西又北に廻り。水砒上升を始むるときハ。
雨尚降ると雖是に於て速に止らんとを決せし。○兩三日
味晴續き。水砒甚く低處に留り。動りゆるときハ。必強風或ハ大
雨の來るべきを察せ。○水砒尚高處に留る間。天狼星の見ハ
る。ハ。通常雨の確後あること明なり。○水砒降り。殊に風北
より南に轉し。大氣濕潤温蒸るときハ。繁露或ハ雨を報せ。

○第三月我二に於て。水砒異常に高く升るハ。其夏日必熱を
受。若くハ然らゆら。一時續ひて早天あり。ハ。其を報せ。
○水砒異常に低く降るとき。其地に於て曾て非常の氣候を
見せるときハ。必其近隣の地より其變動あり。事を知るべし。

八 卧褥は月ふら羽毛を淨製する法

不潔にして惡臭ある羽毛を。樽若くハ桶に容れ。是に錫布水
或ハ曹達水を注ぎ。杖杖を以て攪動して。善く洗淨せ。○斯く
洗滌せし後。羽毛を手ふて擗托し。之を空氣通暢の處に攤
け乾らし。時々轉繕して。箆或ハ竹枝を以て撃ち打くべし。○
是に由て。羽毛全く淨潔して脂分を脱し。従前の彈力を具

へ得るなり。

九 蜈蚣を貼るゝ法

蜈蚣を貼るゝに方て。毎時之を適宜の部位に致とを若く
去。○クウイセ名入其法有り。先、灰色無膠紙を取り。膏上は水
蛭を貼けんと要する部位を量りて。之を随意的合の數口
を剪り開き。而る後、虫を水に蘸して膏上に置く。さて設ハ
是を以て麦酒蓋を以て其部を覆ひ。水蛭這ひ出下。他の赤膏
上に吸著せさるゝふ為まへ。

間、蜈蚣は鹽を抹りつけ。其血を噴く事あるをの何れとも。斯
く為せる者ハ。水蛭をして病を起し。其斃るゝ也。○然るに。其

頭部に向つて。烟草の烟を吹き著せハ。水蛭眠るゝ如くなり

て。終に其血を吐く。此法を用ゝるゝのハ。二時我一時○此篇に
記する時ハ皆西

洋時限あり。已
下是きに依て。經るの。後。復。用。は。供。るゝ。に。足。る。○。又。或。ハ。蜈

蚣の尾を拵りて。一條の紐の如く兩指間に挟み。曳搾りて。血

を其口より吐出せしむる事有り。此法を用ゝるゝのハ。水蛭

は害なき事にして。又。一。く。生活せしむる事。此。暴。刻。なる。所。置。は。由。り

て。其。水。蛭。役。能。く。利。用。せ。ら。るゝ。に。至。る。べ。し。

十 釘書工の用ふる金液の法

普通其筆を黒斑小漆、做るゝハ。水を以て稀多き。鐵液、綠卷

溶液を用ゝるとも。赤色に漆るゝハ。金液を用ふ。○其法、金箔を

塩酸海塩精及び強水消酸の和劑中に投し。復溶解せざるに至り。此溶液を再び清水に稀釋せし。此色を用れ。其華已に暗赤色と成る。又能く消せ。紫赤色と成る。○其華帯ハ。蘓魯林水素酸を用て製練し。何と魚し。

十一 書籍の徴を防ぐ法

書籍の徴氣を防ぐハ。家室の卑くして且陰濕なる處に在る書籍中に。一二の揮發油を備へ。多し物を置け。其害を受るゝと云ふ。

十二 樹木を植ふに石灰を用いて利益ある法

樹木を植ふに。石灰少許を用いて頗裨益あり。○獨逸は於て

四シケーベル量名。一シケーベルハ。我の石灰を。一モルゲン

六百ルデ平方。の地面は和をも適當の量と云。但し樹苗を植ふ

前に。石灰を十分平等に。善く其土と和合せ為さへし。○石灰

は由て大に生力を増し。速に新根を生し。深く地中に入て善

く樹幹を固え。著しく其生長を資く。○此試用小於て。物ハ人

或ハ石灰の爲に其樹甚速に蕃茂せしと云。遂にハ羸瘦せん

ぬとを疑へり。然もとも。經驗は由て。從來何の地方に於ても

其事何を見。且酷しく障害あり。風は中り。或ハ他の多く

の厄災は罹るゝと云。此法を用ひぬる樹木ハ。曾て其

患なく。平常の如く生長するの益何と云。故に。其説果して非

あることを知る。

十三 火傷を治す法

米里堅の治療書中。タテスト。ク人の説に曰。火傷を治すの妙法ハ。綿絮を安息香丁幾劑に煎し。之を以て創處に巻布せしむ。痛を催せしむ。頗能く鎮静して平愈せし。○一兒大火傷を被し者。小あしを施せしに。四分一。三ヌトに其痛を消し。又生れて第四月の嬰兒。熔化せる脂油にて火傷を受た者。小あしを與ふるに。十密扭寫の後に其啼泣を惜しむを以て。疼痛の消るるを知り。

又一法

六歳の兒。嘗て其兩手を熾に焚燒せる竈火中に落せしに。其座に在りし祖母。尚壯健なるを故に。其兒を抱き。兩手の傷部を水中に保持せし。人々為に。急に厨房に至りしに。登時。其別室に新製蜂蜜を盛り多し。甕何れを日取し。痛楚可施の術を知られ。忙しく兒の兩手を其中に挿し入るるに。其疼頓に鎮静せり。○其日より次日に至るまで。續いて其手を蜜中に保持せし。第二日の後。其創處損傷せし。毫も痛を覺へし。早く已に平愈し。亦絶て水疱をも發せしりあり。

十四 蜂螫の痛を治す法

少許の刺篤亞斯。或ハ藍液を刺處に貼布せしハ。即時に其痛を減也。

又一法

蜜蜂ハ螫けし多し時に方て。其刺處に蜂蜜を塗せしハ。殆一瞬時に其焮痛及ハ痒氣を鎮止せし。

十五 三鞭酒を擬製せし法

三鞭酒の色を備へ多る上好白酒を用て。速に水を加へて製し得へ。其法甘味の度ニ隨て。舊秤二羅度乃至三羅度の細末冰糖を加へ。能く混合溶解して後。水を加へて三鞭酒樽ニ填ち。每樽に細末酒石及ハ刺篤亞斯各四分一羅度を加へ。急に之を

把塞^クよて緊結し。瀝青^{ヤク}を塗り固封也。○此樽を一二時間窖中に置けハ。三鞭酒透澄となりて。乃隨時水を加へて用ひ得也。

十六 蘇魯林水 漂白水を製せし法

漂白水即蘇魯林水を製せし法尤の如し。○五羅度の鉛丹。及ハ二羅度^{共秤}の食鹽を。セルペンテイン^{茶磨石の}ステーン^{の葉}に白く併せ磨り。水に四升の淨水を徐々に注ぎ。善く和合せし。而後水六升を容るべき玻璃樽に此和劑を瀉し納す。○此赤色の濁液に。手を止免^ハ以振盪し。二羅度の發烟硫酸を滴し加へ。爾後仍よく屢振盪也。二十四時を経るの後。乃所謂諸種の絨緞絹帛類を漂白せしに要藥ある蘇魯林

水を得るあり。○北米里堅ふくハ。此法は撥りて漂白水を多
量り製し。挹軸を具へ多る桶を水平に安置し。旋轉して善く
混和せしめく設施し。此水を用て綿布を漂白せしむに供也。

又一法

トウルトイス氏連に之を製出せしむの法あり。○玻璃壺
に淨水二升半。硫酸九百十八分。食鹽二百八十分。細粉鉛丹四十
分共を納し。振盪してよく混和せしめ。密封し貯ふ。

十七 葡萄を貯蔵せしむ法

葡萄ハ乾らしる糠中ニ貯りしる能く久しきに堪えしる。然
れども其内一顆の葡萄濕潤せしむとせハ。糠を以て發酵せし

也。遂に他の葡萄を侵蝕せしむに至る故に。糠を代はりて。抱木
の鋸屑或ハ乾らしる灰を用て之に填て置かるを最良とせ
○此故に。斯く貯蔵せしむ。葡萄を食用せんとせしむに方て。先
之を微温湯中に投じしる。而して後冷處に乾らしるを要すと
す。

十八 雞に多く卵を生ましる法

冬季雞に多く卵を生ましるふを善く穢熟せしむ。葶麻子を
其食餌として與ふべしる。○此種子を取る法ハ。長大の葶麻子を
第八月我月七の末季に刈り取りて。暴乾せしむ。種子自然脱落
す。故に容易に取り納めしる。

十九 水を濾す法

過^{カケラ}銹カケラせよ。大甕を取り。其下底に一口若くハ數口を鑿ち。一塊の海绵又ハ洗淨せよ。藓苔を置き。而^レ後。淨砂或ハ木炭を其甕の三四分ニ填てよ。但^レ木炭ハ豆大に撃碎き用ゆ。○此上に棉布若くハ絨片を覆ひ呈け。寬く甕邊外ニ達せしめて。水を其上ニ洗けハ。其水濾過して甕の下口より瀉出せよ。○布。絨。及ハ砂。炭。海绵。藓苔等ハ。屢淨水にて洗過せよ。或^ハ木炭ニ代^ハて。或ハ獸炭即^チ燉骨石を用ひ得。○甕ハ寬大なるに隨て。其用愈鉅なり。但^レ其蓋短小なるも。居家日常飲用の為^ニ亦頗^ニ便要とすに足る。○斯の

簡易なる装置ハ。彼の精^ト騎トを用て設施せよ者なりハ。其法太良なり。此金屬ハ。固^ニ毒性ヲ有^ル者少^シて。水中及ハ大氣に觸て。甚^ニ酸化シ易^ク。且^ニ一旦酸化せしハ。其一分ハ水に溶解して。含密の理を以て。水と抱合し。共に濾過し出^ス。故に。夫の金屬を喩収せよ所の炭の為^ニ。今離し得^ル。故に。此に至るハ。あり。

二十 玻璃罎を淨洗する法

綠玻璃罎を洗滌せよ。霰丸ヲ用^ス。霰丸ヲ用^スを良とせよ。更に善く淨滌せよ。此に受容せる液類を害せよ。故に。夫の水精玻璃

璃を洗滌するに細砂を用ゆる如く一般に此方法亦甚稱用
をいへり。但し砂を用ゆるハ。玻璃に細疵を生ずるハあり。○
故に各種玻璃壺を善く淨滌するハ。灰色無膠紙の小球子
を壺中に入れ。微温の錫布水を洗き。周く振盪し。而る後清水
を用て洗淨するを最良法とす。

二十一 塩藏食物の塩氣を脱する法

強く塩藏しある物を水煮して。淨潔に洗滌せし海綿を其中
に投じしハ。極めて善く其塩氣を脱除せしむ。○蓋し其海綿
能く水中の塩氣を喩収せしむあり。

二十二 義布斯イブスの法イブスにて捏造せる塑像を堅固にする法

捏造せる義布斯の表面を堅固に成して。大理石の觀を為さ
しむるハ。ペンワールペンワールの法に隨て。一介半和蘭の明礬を
二或ハ三盃の水に溶解して之を温め。捏造物を十五乃至
三十密に寫の間。其中に没入せしむ。○其物乾らる後に。其
冷へ多し。溶劑を是れり灌注し。其表面に結へし細晶様外皮
を砂紙砂紙にて磨り落し。水を潤せし棉布を用て磨き上へ
し。

二十三 火腿及びスベッキスベッキを貯ふる法

火腿及びスベッキを貯ふるハ。之を麩麩麩麩の中中に藏せしむハ。

腐壞くわくわいもくわくわいおとふく。其久くわくわいしきを經くわくわいるも。鮮白せんぱくふして尚新しやうしんなる者ものの如ごとく。且かつ其味あじ極ごくえて美うつくなり。加之か之。其麩こ麩こも亦腐敗くわくわいするもとふし。

二十四 木材の腐朽を防ぐ法

イ、イル、マルカ、レイイ、イル、マルカ、レイの法に。硫酸銅りやうすうどうと水の飽和溶液はうわごう。或ハ是班牙綠しぱんやろくの溶液りやうえん。及び水と木醋もくじやくの和劑わざい等を用て。木材及び繩なは索類さくの腐朽くわくわいを防ぐ。○此液このりやうえん中ちゆう其物そのものを浸ひす。能く飽充はうじゆうせしめて後のち。木材もくざいハ善く乾かわかす。繩索なはさくハ緊きんく一聯いつれんに束曝たばくするも。但たゞ。其二種このふたしゆの物を浸ひす時間じかんハ。其品質そのひんしつの態制たいせいに係かり。

二十五 木材を接着して。能く水濕すいじつを堪たゆる鱈膠たがくの法。

トルントルン氏の發明はつめい也。桶おけを固かく合著あひあはするに用もちる所の水みづは。堪たゆる鱈膠たがくの法はうの如ごとく。○新秤しんぺい二羅度にらどの鱈膠たがくを。半盃はんがいの水みづに和あし熬あて。試しに指頭さしづつを粘ねりて。膏脂かうじの如ごとく。又箱蓋あはらの用もちる粘膠ねりくわくの稠しゆうとふり。十分溶解じふぶんとうげつするに至いたりて。是こゝきに七しち。或ハ八羅度はつらどの煎熬せんあう荏油じんあぶらを加くわへ。仍なほ手を停とどめ攪混かはんし煮にゆゆと二密扭にみつねり篤あつ若わくハ三密扭さんみつねり篤あつふして火かより下くだす。○此膠このくわくを水桶すいおけの牆板かべに塗ぬりて之これを合あせ。箍くわ圈けんを嵌はめて緊きんく縛住ばくじゆうし。膠くわくを以もて合縫あひぬいを周まわり封著ふうしやくせしと。膠くわく全ぜんく乾かわひて後のち。箍くわを除のぞく。○此膠このくわくを用て。又他の水このほかのみづに浸ひす。木具もくぐの類るいをも合著あひあはする。但たゞ。總すべて其器具そのぐうぐを用もちるに方かたて。先まづ善く煖處ぬるまへに燥かわりせし。

二十六 木具に光輝を興ふる塗劑の法

木具に光輝を興せしむるハ尋常のシケルラック、ヘルニス
よりハ次の方法を以て遂に勝りとし。○上好酒精和蘭秤
四分一盃、紫鉛パーミッシュ即シケルラック及ハ杜松脂各一升半を取り。緩
火に煮て、手を停見に攪混し。其和劑全く溶化しむるまでとし。
火より下せ。○さて一捲の絨緞邊オウチンを取り。此液少許を以て
此は濡れし。柔き利諾布リノブに冷まし。の荏油を潤せし
者みし絨邊を被ひ。包之。之を用て光輝を興へんとし。所
の木具を輪圓状に摩過し。且此劑一頓に多く塗上し。さう
さうし。若意し。摩擦に依て。木面微細の湊理をして。漸く填

實平滑なるを要す。○最後に尙少許の酒精及ハ
塗劑を取り。上法に從て摩擦し。最美の光輝を興せしむる。
此物ハ亮し水の侵襲を受るべし。

二十七 隠見紙を製する法

水唾液若くハ他の液汁を用て。墨汁と一般の色に寫し出さ
しむる所の隠見紙ハ尋常の紙を以て製出せしむ。○紙を没
食子の稀、浸劑に蒸し。善く陰乾して。極えて細末の綠礬を摩
搓し。而る後。細末杜松脂を周く摩擦す。○是を此紙上。己に墨
汁の成分を有せしむる故に。若し此に水潤を受るときハ。流
動墨汁を用て記せしむ。如き一様の色を現ししむるあり。○把

理斯^{リッス}併^ヘ蘭^{ラン}のふ於て此紙を數度より售出せり。

二十八 赤墨汁を製する法

ヘルナンデス^{ヘルナンデス}ク木舊秤二羅度明礬半羅度亞刺伯護謨^{アシバク}一羅度及ひ少許のコーセニリイ^{コーセニリイ}を以て赤墨汁を製する。○コーセニリイ^{コーセニリイ}の没汁ハ。豫先酒石酸を加へて其色を固く刻制して亞刺伯護謨^{アシバク}を和し。殆^タ流動をくうらさむ如くに稠厚と為し用ゆべし。

又一法

ホトゲル^{ホトゲル}名の法に純精のカルメイン^{カルメイン}にて製せる最美の紅^紅料^料。○紫^紫の屬^屬十二匹を取り。硝砂精六羅度を盛りたる小磁皿中

に灰をを投して紙を覆ひ燈火上に致し六三ニエト^{六三ニエト}乃至八三ニエト^{八三ニエト}の間殆^タ煮沸を極き熱度に至らしむ。絶^絶て攪混^{攪混}をせし。細粉亞刺伯護謨十八匹を和合す。○此紅汁ハ最^最鮮美貴重の色を呈し且變更もするおとあり。但し其價稍貴とす。○之をを使用せる後宜しく密栓し貯めし。

二十九 綠墨汁を製する法

西班牙^{スペイン}綠^緑銅^銅二羅度亞刺伯護謨半羅度鬱金四分一羅度を適宜の葡萄酒と和し温處に置き浸出せ。

又一法

葡萄酒醋を玻璃壺の半に充て別に一箇の水を盛りたる壺中

に之を置き。火上り安して。徐に火を煮沸せしむ。○此沸熱せる液中に。細粉西班牙緑を徐々に加へ。其物復溶解せしむ。醋全く飽和するに至るまでと。火を止む。但し飽和の度

三十 黄墨汁を製する法

雜股蘭半羅度を適宜の護謨水に加へ。火上り温め。汲出して。濾過し貯ふ。○是に硫黄色を與ふ。藤黄を加ふ。

三十一 青墨汁を製する法

ブルンスカイキ緑一羅度を水一羅度と和し製す。○又適宜の洋青を發烟鹽酸に溶解し。是に達刺祝篤護謨を和し。水適宜を加へて。隨意其色を濃淡を爲す。

刺篤亞斯の溶液二分に水四分を和せる者を用ひ。刺諾布の記號を印せんと要する部位を濡かして後。よく乾らし。消酸銀。即ち地獄石の溶液に。若干の水。及び亞刺伯護謨を加へる者にて。其部に記す。

三十三 記號墨汁を製する法

普魯杜の病院ふれてハ。消酸銀を以て製する所の記號墨汁を代へ。次法を用ひ者あり。○舊秤四分一羅度の藍澱を半翁斯の諾爾度法攝爾硫酸含密閉に溶し。水八号を和して之を稀釋し。次に鐵の鱗屑を徐々に加へ。其液全く是を飽和するを候ひ。液を傾け移し。カラッパルス四号。カムベセ木二

三十三
 三十二
 三十一
 三十
 二十九
 二十八
 二十七
 二十六
 二十五
 二十四
 二十三
 二十二
 二十一
 二十
 十九
 十八
 十七
 十六
 十五
 十四
 十三
 十二
 十一
 十
 九
 八
 七
 六
 五
 四
 三
 二
 一

に之を置き。火上下安して。徐に火を煮沸せしむ。○此沸熱せる液中に。細粉西班牙緑を徐々に加へ。其物復溶解せむ。醋全く飽和せむに至るまでと。火を止む。但し飽和の度ハ。細粉器底に沈澱せむを以て火を知る。○爾後其醋中に含有せる西班牙緑をして。結晶せしむ。流動形を為す。其れを注意し。其七分一。若くハ八分一の亞刺伯護謨を加へ。其液を澄清せしむ。○又醋を直に火上に致す。重湯を用て煎煮せしむ。其れを要す。然らざれば。其緑多く蒸澱を失はしむ。

三十二

利諾布に記號を印せしむる墨汁の法

利篤亞斯の溶液二分に水四分を和せる者を用ひ。利諾布の記號を印せんと要する部位を濡らして後。よく乾らし。消酸銀。即ち地獄石の溶液に。若干の水。及び亞刺伯護謨を加へ。其れを要す。其部に記せしむ。

三十三

記號墨汁を製する法

普魯杜の病院おれたハ。消酸銀を以て製する所の記號墨汁。よ。代へ。次法を用ひ者有り。○舊秤四分一羅度の藍澱を。半翁斯の諾爾度法攝爾硫酸含塞開に溶し。水八分を和して之を稀釋し。次に鐵の鱗屑を徐々に加へ。其液全く是に飽和せしむを候ひ。液を傾け移し。カラッパルス四等。カムペセ木二

膏オシスを加へ熬て。四分の三と爲し。最後に硫酸鐵を加へ。適宜の黒色を得るを度とし。又此に亞刺伯護謨一匁。砂糖半匁を和し溶化せしむ。

三十四

久を経て更變せざる墨汁の法

ド、エウレウキス名入の法に。亞刺伯護謨一匁。砂糖半匁。醋酸鉛。即ち鉛糖半匁を淨水二匁に溶和し。此溶液に硫化水素瓦斯を通し。其鉛を少しく分離せしむ。一密扭篤間煮て後。油煙二錢を徐々に加へ。攪混して。此液に同量の尋常墨汁を交和せしむ。

三十五

亞鉛上に書ざる墨汁の法

譬ハ。植物の外ウツミ套上に貼る。亞鉛の牌面に載る。小記を書カキたる如き也。此墨汁を用ひ。○製法。中和醋酸銅(結晶西班牙)及び礬砂同量を。適宜の水に溶解して。濾過し貯ふ。○此液を用て亞鉛上に書ざる墨汁を。瞬間に黒字を現し。記して後。二十四時を経れば。熱湯に洗過せしむ。其字を消滅せしむ。

三十六

象牙に鍍銀せしむ法

象牙を硝酸銀(地獄石)即ちラービス、インヘルナリスの溶液に浸し。少時液中に置き。後淨水にて洗い。日光に曝干せしむ。二三密扭篤の内。其象牙黒色と爲る。之を磨りハ銀光を發す。

三十七

黄色より為り多る象牙を澄白にせる法

黄色と為る象牙を。脂油を塗り多る麻布にて包み搥き。之を火上に烘熱せしむ。但し其間慎んで蒸熱せしむ。少意を用ひ。○さて同量の酒石。及び木灰。或ハ少許の剝篤亞斯を加へ。多る水にて。徐に之を煮る也。

三十八

イ、グト痛を治せる法

腎官^{イ、グト}ガグリ^{イ、グト}ア^{イ、グト}氏^{イ、グト}嘗てイ、グト痛の費歇不正なる症を患ひ。其痛終に両手^{イ、グト}ヲ轉移せり。此に於て爾未被用せし卧褥を離し。偶々久く嗜中^{イ、グト}なる所の煙管を把りしに。登時^{イ、グト}右手の中指に堪^{イ、グト}難き痛苦を覺へしを以て。其煙を頻に其指節上小向

つて吹き送りしが。其痛頗に減るるを覺へ。管を撤するに随て。全く鎮止し。其部位に當て。夥しく汗を蒸發し。次ひて平愈せり。○爾後ガグリ^{イ、グト}ア^{イ、グト}氏^{イ、グト}他のイ、グトを患る數輩に勸奨して此法を用ひ多る可。其内三人ハ。是が為に。速に其痛苦を免る多り。但し其煙草ハ。他物を混合せざる者を最良とせ。○是を以て觀きハ。蓋煙草浴の法ハ。他の數多の内用法と等しく。駢へ稱して可なり。

三十九

齧齒痛を鎮止せる法

是^{イ、グト}ボ^{イ、グト}ト^{イ、グト}ステ^{イ、グト}ト^{イ、グト}名^{イ、グト}地の腎官^{イ、グト}エン^{イ、グト}ゲル^{イ、グト}氏^{イ、グト}小謝^{イ、グト}をへき所の妙法にして。已に種々の患者に試用せり。○エンゲル曰。諸種齧痛

若くハ齧齒痛ニ於テ。概有^テ功ノ方法鮮^シト雖。塩酸瓦斯ハ臍
間に功ヲ奏^スルノ一物ナリ。余物ハ獨^リ。倭麻質^ハ齒痛^ニの^レ此
法ヲ用^ヒ効^ヲ得^ルガ。其後齧齒痛^ニも此法ヲ用^ヒに。其痛
即時^ニ愈^ラリ。是^ニ由^テ。總^テ此法^ハ。諸種^ノ齒痛^ニ施^シテ。鎮痛
の良効^ヲ奏^スル者^ハ。あ^リと^モ費^明セ^リ。

此瓦斯ヲ用^ル法^次の如^シ。○小磁皿^{或ハ}玻璃酒盞^ヲ取^リ。食
塩^一二茶匙^ヲ投^シ。是^ニ其半量^ノ稠厚^ノ硫酸^ヲ注^シ。其和劑^ニ
直^ニ昇騰^{スル}蒸氣^ヲ以^テ。務^クテ口中^ノ痛齒^ノ部^ニ觸^レ
カ。但^シ此内^ノ屏息^シテ呼吸^{スル}あ^リと^モな^らず^ニ。然^ルニ^モハ。
其瓦斯^ノ氣管^ヲ刺^シ銜^シテ。咳嗽^ヲ促^シ。藥力^ヲ妨^ルル^ル故^ナリ。其

當^ニ呼吸^{スル}あ^リきに方^テハ。口^ヲ背^ケテ瓦斯^ノ刺^シ銜^ヲ避^ク。乃^チ
其痛^立に鎮^止ス^ル。○齧骨^ノ症^ニ於^テ。齧齒^是ル^ル為^ニ多く
侵蝕^セル^ル者^ニ在^テハ。其効^甚速^クあ^リと^モ何^レと^モ。
此法^ヲ行^ハノ後。十五密^ニ封^シ。寫^シ出^シテ鎮^止ス^ル。但^シ此
内^ノ數^次瓦斯^ヲ患^部ニ通^觸セ^ルあ^リと^モ要^ス。○其痛^長く
去^リ。或^ハ時^ニ一週^間も持^タズ^ルとき^ニ於^テハ。其十二時[。]
若^{クハ}二十四時^ヲ隔^テ。費^作ス^ル毎^ニ。必^ズ此法^ヲ再^復遂^ケ
行^ハハ。其痛^終に全^ク鎮^止ス^ルに至^ル。○此瓦斯^ヲ用^ル
便^法數^様あり。設^ハ玻璃漏斗[。]玻璃管[。]烟管^等ヲ用^テ通^導ス^ル
。亦^長頸^ノ小玻璃^壺中^ニ於^テ瓦斯^ヲ費^絞セ^ルテ。隨^意的^合

の處に觸るるを忌む。○其所置斯く數様あり故に常に其
良功を収めらるるあり。此疹幸ある症を患いて。醫家或ハ
製藥家の手を俟多し。おをを療せんと欲する所の諸人の為
に。今余此處法を掲げ示せり。但し。硫酸ハ苛烈にして且酷
く焦爛する性の物なる故に。之を用るに方て。殊に戒慎し
て從事せし。○過酸塩酸瓦斯即蒸氣も亦頗る俊効あり。然る
とも。其能力特に速くも亦非以。又其製法彼に如く簡一な
らば。故に余敢て之を試用せし。おをを欲せし。○又塩酸
を用ひし後ハ。妙に齲齒及び口中の惡臭を消除せし。

四十

陷凹齲齒痛を鎮止する法

上好白糖六匁。白胡椒四匁。食鹽三匁を取り。極えて善く研細
して。緩火上ふく熔し。能く混和せしめて。豌豆大の丸を造り。
陷齲中に填塞せし。○又丁子油スズン一匁。硫酸亞的兒即ホフ
二錢を和し。是を綿絮に蘸して。陷齲中に置く。此法最捷効
あり。

四十一

解熱劑の法

ヘルゲ、テリセ、及びカレアウ共に氏の説に。凡そ苦味分を含有
する植物の中。ウツテホフ紫、フリース白の葉ハ。最解熱の功あり
と云。○此新葉ハ。幾那皮と一様の苦味ありて。其煎汁及び浸
汁ハ。妙に熱を治するの性を備ふ。

四十二 燥道を用て黄銅小銀を破るる法

黄銅を稀塩酸に没し。剥駕亞斯三分。蘇魯林銀一分。結露土一分。食塩一分の和劑を用て之を摩す。○其銅美光を發するに至る。酒石及の水の飽和溶液にて洗過す。

四十三 濕道を用て銅及び黄銅に亞鉛を破るる法

亞鉛を甘燭ルツボに熔し。之を熱せる鐵臼に投し。急に攪混して碎粒となす。此粒子を磁器或ハ玻璃盃に盛れる。硝砂の飽和溶液中に投し。煮て液點に至らしめ。之を銅或ハ黄銅線を稀塩酸ふくで淨洗し。之を其溶液中に投し。其線及亞鉛を破りて。鏡面一般の光を發す。○鐵及び銅に亞鉛を破る

るあり。最初にあきを硫酸銅即チ丹の溶液に蒸して。後上に載多し。溶液中に投し。

四十四 銅緑の毒を防ぐ法

マルセリン、ドムハル及ハ、オルヒラ共ニ、多くの試験を以て。砂糖ハ西班、牙緑即チ銅の毒を防ぐ。最要薬なるを發明す。○嘗て此毒に中り。嘔吐腸痛等陰忌の症に傾り。者數人に。適宜の砂糖或ハ糖水を用ひ。其効を得あり。

四十五 寒脱疽を治るる法

有名の醫官ハ子マン、名人氏の確証を據るに。次法を用て。的切に寒脱疽の腐蝕を防ぎ。且全治するの効何をも主張せり。

○十二羅度の標皮粗末を。八分共秤にの淨水に投し。徐々に煎
熬して。濾液一分に至るまでとし。其色宛褐色。麦酒ビールに似たる
液を冷定して。利諾布リノキを其中に煎し。布を四層に折重し。黒色
に腐壞せし患部の四陪大を為さし。之を以て創處を蓋ひ。
毎半時に他の布片と交替して寒淹せ。○其度宜しを得ハ。通常
二三時間に腐蝕の勢漸く過止し。斑爛の嗅氣を驅徐せ。○此
法を以て。寒疽の腐肉漸く剥落して良膿を醸し。漸次に快路
に赴くと雖。三時或ハ四時。乃至八時或ハ十二時を問て。此
法を持久し。全愈に至らしむべし。

四十六 無烟の燈心を製する法

消石を白色澄清の醋に溶和し。燈心を其液中より漬出せし。二
十四時一晝一夜間ふして。乾らし用以供せ。

四十七 草に水を浸淫せしむる法

細刺せる護謨ゴモ會刺斯エラス知加チカ二羅度を過クワシし。壺に盛りて。緩
火上に熔りし。荏油シユ者煮一食匙を和し。善く攪混し。五密扭五密爲
の間に。後同量の荏油を加。平等に調和せ。但し。荏油の量六羅
度に過く厚らふべし。○煮て去きを火より下し。是に一羅度の
鯨油。及び同量の帝列並油を加へ。よく混和せしむ。○此和劑
ハ。靴鞋の草をして極乾て水に燒へ。且軟韌あるべし。

四十八 里没奈埵散を製する法

枸橼酸を用ひきしり。里没奈埵の法次の如し。○適宜の餅糖を
枸橼の黄皮上にて削末し。其糖舊秤十二羅皮。酒石英一羅
皮を加へ。石臼みく細研し。玻璃壺に密栓し貯ふ。○此末を水
に溶し用ひ。亦旅中携用に便なり。

四十九

利諾布に水を浸淫せしむる法

天幕等を用る所の水に埵ゆ。利諾布を製する所ハ。生荏油
煮荏油各二斤に。帝列並底那一号。蜂蜜一食匙を和し。陶壺に
盛り。緩火に煮。手を傳ふ攪混し。悉く溶化するを度とし。是
きを用て火邊に乾らせし布上に塗るへし。

五十

鉛に錫を鍍する法

先其物に脂油を塗りて後。是に熔化錫を塗上も。但し其錫ハ
熱度^{ヒート}に過さし。且其上に油を蓋ししむる。

五十一

引火奴ツケキ自然に火を製する法

イ、ブネル名氏尾能府獨逸のよ於て創製せる引火奴ハ。普
通所在の品よりハ。其價煮ふして。發焰の時。響鳴なく。又爆勢
微なり。其法。亞刺伯護謨二十分。燐五分。過酸酸化滿掩十六分。
消石十六分を以て成る。

五十二 陶器を接著する膠の法

陶器或ハ磁器を固著せしむる所の膠ハ。乾酪即乳汁の稠分
と。細末加爾基より成る。○此酪餘若くハ酸乳より分析せる

稠分を善く洗淨して乾固し。架菲磨カヒふて磨礮カキをへく為さ志
出。是に由て其秤量三分の二を減す。○細に磨粉して後尚一
回乾焙し。此末九分に加爾基四分を合。研和して。密塞玻璃罎
貯ふ。○此和劑ハ甚長く保固するの能あり。又少許の錫布
羅カクを加せハ殊に良なり。是に水を和し。芭布カクと成し。用に使す。
此法ハ援也者ハ。温熱の蒸氣に觸るゝも。曾溶解する事と
なり。

加爾基に鯨油を調加する者も。亦甚堅固にして水に堪へき
膠泥を成す。○鯨油加爾基の法ハ。先加爾基を水に投じしハ。
温熱を起して澱粉を沈降せ。濾して其粉を分ち取り。是に鯨

油を和し。漆料の稠と為す。西班牙スパン小てハ之を用て船艦を畫
くの料とす。○又鯨油小代へて荏油を用る者あり。此物ハ破
裂の空隙を塗塞し。或ハ格兒弗カクの屬を密封する等に用て妙
あり。

水槽を塗るに必用なる石膠カク案に堅固なるハ。鐵の鱗屑及ハ
硫酸に四十陪の水を加へ多々稀酸より成る。之を其全面に
塗らる。

普通泥塗の用る泥灰の成分多々加爾基及ハ砂の中ハ。鐵の
鱗屑を加せハ。鐵屑酸化して鏽を成し。頗堅實と為り。且久し
きに堪ふ。○其法適宜の水に舊秤十斤の加爾基を投し。是に

鐵の鑪屑五十斤。珪土砂十斤を加ふ。○又或ハ其量の鐵屑を
得いりしに遇り。是に代へて鐵落を用ゆ。鐵落ハ
熾熱して水に淬せしハ容易に粉細き也。

又法

杜松脂一斗を強烈燒酒に溶かす。別に魚膠一斗を水に漬し。
柔軟と爲りたる者。其劑に和し。其凝液に。護謨安沒尼亞^{アムモニア}
一斗を加へ。其和劑を陶壺に納せ。緩火上に致し。二物互に抱
和せしに至りて。其膠を玻璃壺に密栓し貯ふ。○之を用るに
方て。其壺を温湯上に置き。破缺せし器物も齊しく熱せ。其破
邊に之を塗り。接合し摩耗して。半時間縛住せし。○此法を

用る者ハ。接合の力極えて緊切ふして。鉄裂せし物と一般
差異なし。

又法

蠟及ハ瀝青を齊しく熔化し。大理石の細粉適宜を加へ。用る
に臨て温め塗りし。

五十三

木石玻璃を接著せし膠の法

甘乳酪の外皮を織く。此に滾湯中に攪和して。柔粘の物と爲
す。此物性水に和合せ也。○滾湯中にて數回此法を施せ。物
を顔色碌子に分ち取り。是に生石灰を加へ。磨りて粘膠と爲
す。○此膠ハ温用せし。又冷用せし。但し。十二乃至十四日

の間放置し乾かす。

五十四 荏油假漆の法

荏油百斤を銅鍋或ハ銅盃にて熱せし之。火より下し。二乃至四銭の強烈消酸を數滴宛時々和合せしハ。響鳴響沸して。二物分析す。○是を冷定し。大氣に放置せしむると二三日ふて。粘液様の滓塗分を降り。澄明の假漆と為る。此假漆ハ。酒黄色にして。乾くおと甚速。多きが故に。別に他の乾料を加ふとを要せし。

五十五 鍍金の邊縁を淨刷する法

舊秤三羅度の雞子白を水一羅度に和し。是に柔き毛刷子を

蘸し。細心して邊縁を磨刷せし。

五十六 健胃苦味酒の法

四分一噸一噸量百五十斤の麦酒を取り。健質亞那一斤。橙皮一斤。長胡椒八羅度を加へ浸出せ。○此麦酒ハ。佳香の苦味有りて。頗健胃強壯の功有り。

五十七 健胃酒の法

醇良佛蘭西酒一盃に。拾失亞木新秤三羅度。大黃一羅度を加へ。二乃至四日間大陽に曝浸せ。○此劑一盞を晝前及び晡前に飲下せし。

五十八 胃瘕を鎮止する法

亞刺吉一食匙に。公黙爾油三四滴を和し。一次に頓服せよ。ハ
胃痛急地に鎮止し。又二回の飲服を要せよ。ハ稀あり。
或ハ黑菜根及ハ山芥菜根を細割し。醇良焼酒に投し。温處に
浸出し。胃痛の發起せし。初頭に於て。一匙を飲下せ。

五十九

馬德辣酒を製せよ便法

白葡萄酒上好者 六十一分。砂糖八分。蜂蜜八分。焼酒三十六度者 八分。

ホップ唐松半類 半分を和合し。浸出せよ。ハと二三日小し。て。棉布

にて濾し貯ふ。○其苦味の厚薄ハ。ホップの分量多少に依る。ハ

六十

大理石を彩飾せよ新法

把理斯府にて近時大理石を彩飾せよ新法を發明せ。○脂膏若
くハ蠟を以て大理石の面を塗り。種々の画像を為り。稀硫酸
を用て其面に深く侵蝕せしむ。ハ。脂蠟を被せし。部位ハ。毫
も酸の竄蝕を受け以て其素質を存し。自宛然画像を現出
せ。○せして其侵刻せし處に。極えて堅硬なる脂蠟を填えて。全
面を平滑せし。ハ。○此法を用て黒質大理石に。緋紅色の蠟
を填實し。エトリス。或ハ。既日多風に揉造せし。ハ。頗美觀を呈
せ。又牟子の鏡板。烟突の外套。牆壁等に用ゆ。ハ。殊に妙なり。

六十一

速に熔解せよ合金の法

蒼鉛五分。鉛三分。錫二分を以て成る。但し其諸金極えて純粹

あるを要す。○此合金ハ滾水已下の度ニ於て已ニ流動する者ナシテ、ローセン、ノタールローセン又氏發の稱アリ。

六十二 雜樹に生ずる苔蘚を除去法

雜樹其他柿木等に生じて其蕃長を妨ぐる所の苔蘚を驅除す。家猪園の中に瀦留する汚水を其枝極に灌くを良と云。

六十三 依蘭苔飲の法

依蘭苔一羅度を先水に蒸浸して其水を瀉し去り更に水一盃及び乳汁或ハ肉煮汁を合せ煮て三酒盞量と為し砂糖を加へ適宜の甘味に調り飲用也。

六十四 無炎の夜燈を造る法

百分一以下の粗なる白金線を以て吉貝燈心を螺卷して線頭を挺出せしむ。酒精を盛り多量に玻璃壺上に挿置也。○此燈心ハ火を點きしむ。忽ち焚燃して白金線亦紅熾也。此に於て火炎を吹滅するに白金線仍紅熾し。又酒精の為に焚燃を保續也。此燈心の纖細なる光明小就て夜間瞭然袖時儀の時刻を辨るべし。○他の蒸體を此に近づくに火を傳ふたとす。唯硫磺を白金線に接せしむ。其勢焼也。○又概火屑逆散の患をいと雜。豫玻璃罩を蓋ふて其不虞を避くべし。○通常八時間に蓋一羅度の酒精若くハ亞爾箇兒を費す也。此に

佳香の物を含有せしむるハ。満室薫芳を散して。殊に心意を
娛ましむ。○白金線ハ。時々淨刷せしむるを要す。

六十五

血を止むる法

子ギールル。把理斯ルの學館ルに於て。血を鎮止せしむる一新法を
公せり。○其法甚簡にして。唯一壁ル或ハ兩壁を高く擧げて保
持せしむる在り。然きとも。是諸種の血に。各對症諸劑を興る
如く。通して効有るを期せしむる。特に偶然自己より發せ
る所の血に功あり。

六十六

油を貯藏せしむる法

甘油或ハ阿列機油を玻璃罎に納き。少許の焼酒を其上に注

き。把ル栓ルして密塞し。獸胞を用て固封し。藏せしむ。腐敗の患な
く。能く久きに堪ふ。○是其油分ハ。焼酒の下に在りて。直に空
氣に觸れしむる故に。此法に由て。多分其腐敗の因を除く
きなり。

六十七

油を淨清せしむる法

千八百三十三年。ホルスト子ル。人氏。ベイエル。獨逸ルに於て。
油を淨清せしむる法を公にせり。○擦皮末四百斤に食鹽四斤を
合ル。是に滾湯四百斤を注加して。蓋ル和し。八日間靜定せしむ。
○さて四百斤の油を。安置せしむる桶中に納き。手を停ルえを攪動
し。宛ル。英吉利硫酸二斤を和し。而る後。前劑二百斤を注加し。攪

混じりしと半時間おいて静定せしむ。○三日を経るの後。澄
清の油を分ち取り置し。

六十八 果類を貯蔵せしむ法

セル^{セル}チ^チ人^人チ^チセイ^{セイ}ツ^ツ地名よりの通知に據りしハ。橙。桃。梅の如
き果物を貯蔵せしむ。次法を用きハ。能く久しきに堪ふ。○先
適宜の淨砂を取り。水を灌ぎて屢洗過し。其水澄清となすを
度として。之を瀉し去り。其砂を善く乾りて後。コグナス焼
酒^{コグナス}獨逸の酒を以て之を潤す。土壺或ハ木桶に納じ
甚飽熟に過き次。猶差未成なる果物を其砂中に貯ふ。○即砂
を段々に散布し。果物を以て顆々相觸せしむ。但し。乾燥

ふして。甚温なる處に貯ふべし。

六十九 才ポテルドフを製せしむ法

此疼痛の症に塗劑とし。稱用せしむ所の英吉利^{エンゲリ}技^キ爾^ル撒^サ謨^ムの製
法左の如し。○乳汁に溶して善く乾りせしむ。白石鹼一分を。亞
爾^{アル}箇^{ガン}兒^エ四分に加へ。玻璃壺に納じ。密栓し和合せしめて瀝過
し。之に。羯布羅一錢に硝砂精五陪量を加へ溶せしむ者。和
し。而も後。迷迭香油半錢。搥^カ埵^ト兒^エ油十二滴。茶^{チャ}沃^{ワク}刺^シ那^ナ油一滴を
加へ。振盪して玻璃壺に密封し貯し。石鹼ハ能く辛蝕の性を
脱し。淨精を最良とす。

七十 牛膽を製煉せしむ法

牛膽ハ凡^{ケハク}絨尼の汚斑を脱除するに最頂の要薬と云。○之を製煉する法。先牛膽一盃に細粉明礬蒿秤二をを加へ。煮り出ると一時許ふして。又食鹽四をを加へ。渣脚を沈定せしめて後傾け瀉し。玻璃壺に密栓し貯ふ。○其液に少許の橙汁を加ると亦佳し。是に由て。其佳香を添ふの事なく。又善く本液の主能を資そく。

七十一

馬の鞍傷を治する法

鞍下の腫起せる部位に。一片のガラス、ソオテ案に我那小く度際又ハ土堤を敷くに用る所の土根のを置き。固く其處を巻ひ。腹帯にて摩壓せしむるをいへく為す。○翌朝に至りて。其腫部些害

を遺さば。解散せしむ。○此法ハ。殊に其壓傷の處潰爛せざる前に施すべく。又馬をして温保せしむ。先、清凉なる湯を要す。

七十二

馬足の痺麻質痛を治する法

焼酒和蘭秤二盃。帝列並的那新秤六羅度の和劑を以て。患部の筋絡上を洗ひ。妙に其疼を治す。但し。善く湯を擦入せしむ。

七十三

描画に用る透明紙を製する法

蘭^{ロント}墩^{英吉利}府の工藝會社の長カテリイ名氏東印度案に支那墨墨を云を用て寫記せしき透明紙の法左の如し。○帝列

並的那一孟。細粉鉛糖和蘭秤二羅度ニを和し。攪混して放頭
さしおと二十四時ノ後。之を善く振盪して。加那達カナダ板爾撒
誤半斤を加へ。其玻璃壺を適温の砂槽サンド上に安し。其液を攪動
して。諸物好く混和ミを度とし。之を以て紙を塗り乾ら
せ。○四五日を経るの後。隨時其用に供せし。

七十四 水記紙シトウシを製する法

此紙上に水。或ハ津唾。及ハ他の液汁を用て書記せし。其痕
黒色を費せし。墨汁を用る如し。○紙を没食子の稀き
液汁ニ蘸し陰乾して。細粉綠蓉を抹布して後。杜松脂の細粉
を擦上せ。○是に由て。其紙上に墨の本姓分を具有せ。今此に

液水を以て紙面に曳けハ。忽ト黒痕を顯ハせし。流動墨汁を
用て記せし。如く一般なり。

七十五 圖画を彩色する為に紙上に塗る膠水の法

舊秤二羅度の細膠カウチク。及ハ同量の白石鹼を取り。二物を一彬ビン篤
の水に火上よて溶らし。其液に明礬四羅度を加へ。手を傳ツじ
以て攪混して。好く溶解せし。○此和劑冷定して後。海綿若く
ハ筆を以て。應に彩色を施し。き圖画上に塗らし。

七十六 パルケメント紙パルケメント紙を製する法

尋常の紙を一二密板間消強水シトウシを蘸して後。水を以て洗過
せし。即チ此紙を得。○此紙ハ。殆トハルケメント羊胎の如く小

して。水の浸淫を受ず。但し焚燃し湯きふと硫黄の如し。

七十七

鹽肉翰堡獨を製する法

生れて七歳を肥へ多し牛の腎一箇を取り。骨を去り。肉中
小在るスノール食用は唇を切り除き。殖脂を存し。務めて大
塊に截断し。食鹽四握に純精消石舊秤一羅度を和し多し者
を用て。肉面に周く持布し。轉反擦入して。肉復濕るさふ不
とに至る。○さて其肉潮濕を始むに至るハ。速に之を桶
中に截さた。務めて能く填實せしむ。但し。桶底に預丁子三十
粒。及ハ少許の迷迭香を入せ置くべし。○又肉をして箇々空
隙を生せしめ。固く桶底に填壓して。容易に蓋封せしむる

やも如く。緊密をなすを要す。○然くして後。此桶を冷處
に置き。一月の間。毎日之を回轉せしむ。一月を経るの後。隨
時食用に供して可なり。

七十八

植物を久しく保有する法

エアウボム名又有名の本草家ウイルベルル名又氏に生殖せし植
物を長途の旅行中善く保有せしむ法を告げて曰。エアウボ
ム氏難得佛蘭西地名より毛理西亞弗利加馬達加斯加の東邊に在る小島名カ旅行せ
しとき。草木の斷株及ハ根を。黄土及ハ牛糞に水を和したる
泥を用て苞を。密蓋せし箱中を納め携へしに。毛理西まで到り
る頃。其數種の株根已に葉を生し。或ハ花を著る者ありと。○

蓋し其知報は據るに。旅航中其箱をロイム船の荷を容るの内に置き多くを以て觀るハ其時日の間。天光を受るを要せしむるのと見ゆ。

七十九

植物の葉蟲を驅除する法

植物に生ずる葉蟲殊に盆種に在てハ胡桃子の外皮の浸汁ハ或ハ煮汁を用て驅除せし。

八十

動物植物を好く保有する法

スウエイ人名氏の説は據るに動物植物を貯へ腐敗せしむる法左の如し。○貯有せんと要する物件を先一回煮過せし水中に入し。是に鐵の鏝屑少許を投せし。是其水中猶含有

此の所の酸素を喻収せしあより凡そあり。○又外氣を遏閉せしむる為に水上に好油一段を注ぎ覆ふし。但し其壺ハ過鏽せし者を良とせ。○此法を用て貯有する肉類七週の久きを經るも曾て其性を耗失せしむとなく。殆鮮割肉の如く一般あり。○蔬菜の此法を用る者も亦同一。○斯く貯藏せる物件を取んとせしむに方てハ桶を斜に傾けし先油を瀉出せし。而して後搗し出さハ其物毫も油分を蒙る出とふし。

八十一

植物の汚斑を洗ひ除く藥水法

植物の汚斑を除く所の亞硫酸を製するに頗る便捷の法あり。先盆上に適宜の水を盛り。水心に一箇の石を置き。石頭を水

面上に取出せしむ。石上に少許の硫黄を置き、火を照して焚
燃せしむ。○硫黄善く燃るに至らば、麦酒盞を以て之を覆
ひ、其昇騰せしむ。白烟を水面に降し、水をして酸性とせしむ。
此法を行ふと再復數回し、稍強烈の酸を得。即所謂亞
硫酸是なり。

八十二

鏤板の圖画を彩色せしむ法

鏤板及び石版の圖画に、油質顔料を施せし筆画の觀を為さ
しむるを先、其画幅に、帝列並底那油七分、精好杜松脂一分、
精好勿搦祭亞帝列並底那三分、細粉白玻璃一分より成る
假漆を塗りて透亮と為し、之を光明に照らし、其裏面より

り尋常の油質顔料を用て彩色せしむ。○其物乾けし後、背面に黒
紙を貼し額面に装せしむ。

八十三

白金綿を製せしむ法

下へい子ルセ、ヒールトイケン近時往々船齋に用ゆ
る白金綿ハ、通常織細の白金線を亂錯不等に鬆く卷束し、之
を蘇魯林白金の稠厚溶液消鹽酸と和せし白金の溶液中
に投し、直に取りて酒精炎上に致し、熾紅せしむ。○卷線熾紅
せしに至れば、蘇魯林白金分離し、其白金ハ海綿状を成して
線上に留著せしむ。○此法を再復數回して、白金線を厚く纏著せ
しむ。○近時白金線小代にて、織細の石綿線アスベストを上法に隨

て琴束一。數次蘇魯林白金液シ沈ス熾紅一製ス。此を載
也。○此法を以て製ス白金綿ハ其價廉なるのハ。白
金の分子殊に細微なるを以て。従前用ひ未ス白金綿より
ハ。燻勢の勢一層盛なるの利有り。○所謂下ヘイ子ルス、
ールトイグハ。随意各様に裝飾ス。玻璃。或ハ磁甯に。黃銅の
蓋を設ス。蓋に一箇の障カ辨を具ス。之を以て蓋口を開キ。或
ハ掀閉して。甯中より綻ス。焚燃瓦斯を進退ス。の一機
盤ス。普通人の知所なり。

八十四 禽類の説

雞類ハ冬季甚多く虱を生スの患有り。細粉胡椒を用て能

く之を驅除ス。孔雀類若一接骨木花を食スハ。轍死
也。雞類接骨木莖を食スハ大害を生ス。○稚シ白露國雞に
截切ス。ブランド子トテル。或ハ葱を餌食に和シ與フ也
ハ。頗滋養の功有りて。大に其生長を資ク。

八十五 髪を生スホマーテテの法

羊脂舊秤六羅度。捺油二羅度。牛腦一羅度。細粉標皮四分一羅
度。白露拔爾撒テ四分一羅度。刺賢垣兒油四分一羅度。を好く
研和シ貯ス。○此ホマーテテハ。特に隨時一箇の疾病ニ因りて。
毛髮脱落ス者に稱用也。但一其症老年の者ニ在てハ。復其
効を見ス。

八十六

磁器を接著する膠の法

蠟及び脂を合せ熔く。大理石の細粉適宜を加へ。物件を熱
く接著す。

八十七

玻璃壺及び陶瓶等を淨洗する法

多量の水を入り多量の水を洗ふ。或は陶瓶。設は茶壺等の如き物
の裡面に。通常灰褐色の塗皮附著して。容易に剥落し難く。又
縦壺内の全面を淨除し得るとも。仍必其注嘴中に残留する
の患を免うべし。此不潔を除くべし。唯稀鹽酸を用て洗過
すべし。是に由て。其加爾基アルカリ徐々に溶解して。全新器の如
く淨潔とすべし。

八十八

鋼筆の鏽を防ぐ法

從來鋼筆の鏽を防ぐに。霰丸鉛筆中貯る等の方法
ありとす。畢竟其益甚多とせし。○通常の鷲毛筆ハ其本有所
含の脂油の爲に。墨汁自能く流滴し。鋼筆ハ其新なる間。其假
漆ハ所謂鷲毛筆の脂油と一般に。又能く墨汁を流滴す。○然
るに。假漆剝脱して。其鋼鏽衣を生ずるに至てハ。其筆頭に不
用の廢物と爲るべし。彼の筆頭磨削して。漸次に充退せしむ
りも頗速なり。○故に鋼筆に。屢至微の脂油を被らざるべし。
其筆久しく用るに堪へし。○是を爲に。帝列並底那及び阿列
襪油各同量を以て蒸したる。一片の脂巾を造り。方に用ひ

鋼筆を乾。りし中片やく淨刷せ。後に。此脂中より一回拭
ひ置。○帝列並底那を速に揮散。油ハ中片に留まり。之
に由て墨汁の流滴を碍り。○或ハ又脂油様の物の
一塊餅を造り。用ひ多。鋼筆の其墨汁を拭ひ多。後に。必一
回此餅中に銜し入。後用るに臨んで淨刷せし。
八十九 鐵及鋼の鏽を防ぐ法
其物件を烘。手に握りて殆。傷爛せし。その熱度に至りて。
之に白蠟を塗り。呢絨片。或ハ革を以て善く摩擦。光澤を
發せしむ。○細綴なる鋼の物件に此法を施せば。濕潤なる大
氣中在ても。鏽を生ず。おとさし。

九十

玫瑰蜜を製する法

玫瑰蜜ハ。咽喉痛。及ハ齒齲の焮銜を治す。家藥として貯し
き者とも。製法左の如し。○舊秤一分の鮮美なる玫瑰花を細
に挫。石臼にて研搗し。淨精蜂蜜半分を和し。煮沸せしむ。
おと三四回ふして。濾過し。玻璃罎に入。獸胞にて密封し貯
ふ。○齒齲痛は用るに臨んで。細粉肉豆蔻少許を和せし。○
其他ハ。此物適宜を取り。水に和し。含漱劑と為し。用ひ。或ハ一
茶匙を飲服す。

九十一

鞋を塗りて光澤を生ずる塗料の法

象牙炭舊秤十二羅度。を陶壺に入れ。是に甘油油 扁 桃二食匙を

和。一。玻璃窰或ハ棍子を以て攪混。次に鹽酸二羅度を調和
 一。又細搗綠礬三羅度白糖四羅度酢適宜を加ふ。○此諸物能
 く混和す。後硫酸三羅度を滴和す。但。其塗料甚稠厚に過
 きハ酢或ハ水を和して可なり。

九十二 鞋を塗りて水の浸淫を受さる塗劑の法

ブリモウト英吉利地名のブリアント及ハヤーナスス人名氏官
 許を受け多る英吉利鞋油スクリューの法左の如し。

凝稠の者

- 象牙炭 六十斤
- 糖蜜 四十五斤

- 頂好醋 十二斤
- 硫酸 十二斤

右調勻し。三十密扭駕間。手を停え攪混し。靜定せしむと七
 日の後護談會刺斯知オベリイムニラヌ知加油九斤を加合す。

又法

流動の者

- 象牙炭 六十斤
- 糖蜜 四十五斤
- 頂好醋 二百斤

但。此中に亞喇伯護談一斤を溶せし者。

右善く調勻して後。硫酸二十四斤。護謨會刺斯知加油九斤を
加合す。

爾後一月の間。毎日善く攪混する。おと半時間おろし。
此劑を靜定する。おと十四日を経るの後。又亞喇伯護謨三斤
を加合す。

護謨會刺斯知加油の製法尤の如し。

護謨會刺斯知加細切せ十八号舊

菜油 九斤

右湯槽の内にて溶解せしむ。

九十三 美艷膏の法

點加帝列並底那三十斤。高桃油舊秤四号。鯨腦四錢。亞鉛華二
錢。白蠟四号。薔薇水六号を調和し。軟粥の稠と為す。○此膏を
皮膚を調へ色を白くす。○亞鉛華々。元皮膚に害ある者あると
とも。此諸件を和せし。ハ些害を遺す。おとふ。

九十四 美艷香水の法仲間西の法に據る

水二孟の中に。先酒精に溶し。おと半。枝爾撒謨。又ハ白露枝
爾撒謨少許を和せし。上好薔薇水一孟を調勻す。

九十五 銀を磨光す。粉劑の法

絶細に搗研せし。酒石末舊秤四号。西班牙結震土末四号。明礬
末一号を調和し。次に嚴醋を以て其劑を濕不して乾し。後濕

か。後乾す。凡二回の後。又泥と為す。極えて絶細に研磨す。玻璃壺に貯す。○銀器を磨光せんと欲せば。此物少許を取り。水を加へ。軟くゆき磨中（まがし）を用て磨擦す。後水を照し。後磨す。漸く乾中を用ひ。或ハ軟草を用て磨き。全く乾くに至らば止む。○英吉利の一銀匠。今より己前遠くより。左の磨銀粉を稱用せり。○甚稀薄なる枸橼醋（じゆんそく）即水（すい）を和適宜を取り。少許の曹達。及び結露土を調勻す。此和劑を日光に曝乾す。○是に由て。其液全く蒸散し盡す。留まらば所の粉ハ。即次日より磨光の具と為す。殊に切要の者なり。

又一法

醫官ハンシ（い官はんし）名の法ハ。淨洗せる烟管土四分。純精酒石一分を取り。絶細に篩ひ研和す。○硫氣を含る卵類及び其他の硫氣を含る食料より由て黒錆せる銀器。即硫化銀を衣せる者ハ。先酢を用て淨磨して後。此粉を用ゆ。

九十六

車駕に裝着せる革に光澤を興る塗料の法
阿膠蓄秤二羅度。水に和す。火上にて平等に融解せしむ。次に尋常錫布蓄秤三羅度。火土より水に溶かす。之を火上に融解せる膠中に注加す。○此二物を溶解せしむる。太火和蘭秤一盃の水を要す。或ハ膠を焼酒に融解せしめて水に煮ゆ。水四分の三盃。焼酒四分の一盃を用ゆ。○二物

を交い、後焼酒或ハ酢に和せ、油烟舊秤三乃至四羅度
を加へ、車收て良好細糊二羅度を少許の水に稀釋し、者
を和し、諸物を善く調勻し、緩火上小致して蒸散せ、此物ハ
直に蒸散せしめ、或ハ温處に致し、或ハ天日に曝乾せしめて
凝塊と成し、收むべし。此塗料ハ適宜の水或ハ麦酒に和して
薄く筆上り塗るときハ殊に妙なり。○車駕の羊ハ是れ為に
大に光輝を添いて其觀を新にせ、又蒸て能く羊の保固を資
せり。

九十七 機盤を活利し、塗料の法

英吉利の機盤塗料の法左の如し。○瀕一分を家猪脂十分に

研勻し、手を停息を攪混しつ。絶細に磨粉せし、ボツ
善く水に洗過し、手は摩して糙法を覺へ、さらさらのを良し、以
十分新製錫布十分を調和せ。

九十八 絨布を汚せし脂油を除く法

帝列並底那舊秤四羅度、既烈焼酒半羅度、硫酸亞的兒半羅度、
杉油四分一羅度を、玻璃蠟に納れ混和し、密封し貯ふ。○此液
を用て汚點せし脂油を除くに宜し。殊に男衣の襟を濯ふ
に妙なり。

九十九 外氣に曝觸せし木材を繋る塗料の法

風化石灰三分、木灰二分、細砂或、煉灰一分を調勻し、細節少く

篩ひ。是に荏油を和す。其稠尋常の刷子を以て從事するに適
宜なるを度とし。極はて善く攪混せしむ。○之を用て木材
を髹るはと都て二回をいし。但し。最初の一回は薄く塗り。
第二回ハ粉々々々厚く塗るを嘉とす。○此塗料ハ。濕潤及ハ雨
氣を防ぎ。日光に曝して損傷せぬ。又其價尋常の漆料よりハ
遠に廉るゝの便有り。

百

海綿を漂白する法

柔軟にして良好なる海綿を善く擇りて。土分を拂ひ。五日乃
至六日の間冷水に浸し。屢絞搾し。時々新水を替へて其質を
軟し。然る後。鹽酸一分に水三十分を和し。ぬる液中に浸す。

是と二十四時間即ち一夜ふして。其中尚含有する加爾基を除き。
加爾基ハ塩酸に溶解す重ねて八日の間之を稀き亞硫酸に浸し。又清水
に浸す。是と二十四時間。其内屢新水を替へ注ぎ。酸氣を脱せ
しめて後。除々に之を乾ししむ。○其亞硫酸ハ。一斤の木炭
に硫酸一斤を灌ぎ。攪混せしむ。所の瓦斯を十八斤の水に受ず。
抱合せしめて製せしむ。○又一法。精緻にして柔軟なる海綿
を先。冷水に浸し。次に温湯に漬し。其湯後。濁らざるに至り。最
後に其湯中小炭酸曹達を加へ。又清水に浸し。終に少許の硫
酸を和し。酸性と成し。乃ち水を洗ひ。絞搾す。○さて別に漂
白水キナール（蘇魯林加里。或ハ蘇魯林曹達）を加へ。乃ち甚稀薄なる硫

酸水を盛り多し一槽。又硫酸及び亞硫酸より成るる液を盛り多し一槽を具へ。此海綿を先第一槽に漬せ六十分間おいて。次に之を第二槽に移す。然る後善く淋洗し之を乾かし之を。

百一 炭醗せる食料の滋養に益ある説
炭醗せる食料ハ滋養の功生料よりハ多シ。便乾酪ハ生酪よりハ其功勝リ。獸類生食をとりハ脂肪を多くと選りて。馬少ふ。○家猪に馬鈴薯を生食せしむるハ瘦せ。煮て醗熟せる者を生食せしむるハ速に脂肪を多く此理あり。

百二

石炭の碎屑を焼く法

石炭の碎屑ハ水と和し泥團と成し。煖室火箱中に焼けハ水氣を炭蒸して。箱中に蓄結せし。温素を忌み無益に損失せしむ。故に其利用鮮し。○是に良好の泥炭及び水を調和して。適宜の團塊と為し乾し。尋常の泥炭の如く煖室火箱或ハ電窯を用ひ。善く焚焼せし。一箇の好蒸料を得るなり。○煖煉の碎屑も亦同法を用ひ。好蒸料を造り出さし。

百三 石膠の法

蠟燭秤一斤。脂一斤。鐵落四羅度。ステーションロート四羅度を一壺に熔り。又他の一壺に。硫黄八羅度を熔り。第一壺の割に合し。手を停め攪混して。仍四分時間緩火上に置きて後。

冷水中に投し。手を以て善く其塊を調煉す。○石籠。石像等を
接着せんと欲せば。此膠適宜を熔し。煮て炙りたる破口に塗
りて接着し。善く之を緊合せしむ。

百四

煖室火箱。或電室等の破隙を塗る填塞料の法

冬時煖室火箱の甬管。破隙を生じて。烟氣満室に散布せしむ。
殊に驚陶小地へ難きものなり。○其破口隙隙を塞きて。固く
保住せしむ。にハ左の填塞料を施すを嘉とす。○絶細の木
灰。及び結露土。各同量を取り。少許の鹽酒シホヅを和し。浚スて泥と為
し。隙隙を固く填塞せしむ。○此泥ハ剥落せし患なく。又異常
に堅實なり。但し此料を施すときハ。火箱をして熾熱し過さ

るふ不着意せしむ。○少許の石墨カトを和して。是に鐵色を與ふ
ると亦妙なり。

百五

鐵の填塞料の法

硝砂二羅度。硫黄華一羅度舊秤舊に。鐵落十六羅度。及び少許の煤
土燒き多石炭の滓を和して。善く調勻し。乾くし貯ふ。○用るに臨ん
て。此劑一分に。細粉鐵落二十分を加へ。又水八分。七。醋八分。一
の溶液を調し。浚スて泥と為し。鐵器の接隙。及び破口を塗塞す。
○此塞料ハ。火力に堪へ殊に能く鐵に抱合す。

百六

磨萃を製する法

舊秤一分の羊脂を熔化し。是に黄蠟八羅度。篩過せし絶細金

剛砂一分及ハ英吉利靈天蓋半分を加へ攪勻す。○冷定の後、
木板に緊く張り延べ。又ハ膠著せしむる厚き革上に塗り、
滑澤なる圓鐵を以て其上を摩擦す。勢免て之を革中に竄
入せしめ。然る後、善く洗淨し、多る絶細金剛砂を其全面に抹
布す。又圓鐵を以て摩入す。○此法を行ふと仍、三四ふして、
革上に被衣せしむると半、レインの厚に至るを度とす。

百七

齒を磨白くす法

嫩き葡萄莢を焼て炭と為す。發て絶細に研磨す。少許の玫瑰
蜜を加いて齒を磨け。齒頗善く皓白と為り。馬些害を遺せ
ざらふ。

百八

ハヘラント名人の磨齒粉の法

ハヘラント名人氏々磨齒粉ハ極えて必用の物ふして。通常概
細に研搗せ。赤珊瑚及ハ浮石末等より成る磨齒粉の如
き。有害なるもの、比ふ可らず。○製法絶細に研磨せ。赤檀
一分、錢那半分を合せ。之に丁子油、或ハベルガモト油二滴を
調和す。○齒齲緩みて出血し易きものに用る。少く。四分一の
粉細、枯礬を加ふべし。

百九

家猪肉を貯藏す法

夏時家猪肉を貯藏せしむ。先、屠者より殺し來らば、即時に
其肉を煮炙。各、其宜きおとの大小に截断す。底深き甕壺に納

是に乳汁を注ぎ。内面の上小超ふと二指横徑なり。○今一鬻の内を用いんと欲せば。乳中より之を杞り出。淨水を以て乳汁を洗除し。随意調理をへし。○此簡法を用て。内を新鮮に貯ふと。八日の上に出るのよしあり。又能く其味の甘美を益す。

百十

粗大の鐵具に塗る漆料の法

瀝青及び己麻油各等分を合せ熔化し。適宜の油煙を調勻す。○外氣に曝置する鐵器。設は旒旗欄干柵門の鑲具等。硬強ある刷毛を將て此料を塗らふと。二回或は三四をへし。○此漆料。外氣中り夏熱は曝して。損傷せざれば。日を経る

に隨て益堅靱となり。光輝あり。此と假漆の如く。鏽蝕を防ぐ。此と尋常油漆より。遙に超越す。

百十一

焚燒を防ぐ假漆の法

木器に塗るて焚燒を防ぎ。且其器中より水を煮沸せしむるに。至りへき假漆の法。左の如し。○魚膠或は他の膠を水に溶し。次に水と明礬の溶液を造り。二液を混和して。火焰に觸る所。木器に塗る。○一回塗上して乾らば。後其液に少許の醋を加ひ。再之を塗るべし。

百十二

褐色假漆の法

失結落古舊秤六羅度。勿搦祭五帝列並底那十分羅度の四。四

再留酒精一升を調へ温め諸物悉く溶和せしむるを度とす。

百十三 護謨會刺斯知加の假漆を製する法

此假漆ハ水に涵せ所の諸物の為に必需の者とす。○巴麻油一升。細刺せる護謨會刺斯知加一升を併せ火上に熔化し。次に舊秤二升及四分一の熱せし荏油を和し。又細粉明礬一升及ひ同量の細粉酸化満俺を加へ。攪勻して一時。問火上に置き。全料平等に熔和し。粥稠を為すに至りしを冷定の後帝列並底那半升を和して。其劑を稀釋せしむ。○此假漆を用て繩索。帆布。包貨布の屬を塗るハ能く水濕に堪ふ。故に遮日遮雨の天幕及ひ諸般の外套等を塗るに亦必要の者多し。

百十四 銅或他の全屬に塗る假漆の法

尋常落古 和蘭秤十六羅度の良好失結落古を。鐵茶の桶盃。或ハ玻璃罎の半に充。密蓋して。燒酒一盃和蘭秤を澆き。之を火邊。或ハ湯槽中に置き。其熔解を催進せ。○此罎を每一時六回。乃至八回振盪して。二十四時即一晝夜を經るの後。沈滓を去り。澄液を分ち貯ふ。○此落古ハ銅。黃銅。錫。鐵茶等の諸般の器具を塗るに甚妙なり。其色本來赭褐なる故に。器具に塗ると厚きると。彌。暗黒と成る。○合銅に之を塗るハ。宛。褐色の土器の如く看ゆ。

精微澄亮の落古 尋常失結落古を代へ。淨製透亮の卓子落古

今時船荷フナ元平五を。上法に擾て。最頂鋭烈焼酒ヲ溶和シ。

無膠紙を用て漚過ス。ハ。無色透亮の假漆を得る。此

兩種の假漆ハ。貯藏一年を經て變ル。ハ。此

此ニ古に各色を施ス法。左の如シ。

一 姜黄四羅度半。護謨ヲ達刺ヲ侃ヲ篤ヲ六羅度ヲ和蘭ヲを焼酒半ヲ五ヲ和蘭ヲ

に調シ。屢攪混シ。溶解セ。ハ。此料ハ鮮美の黄色を呈ス。

二 達刺侃篤を除き。單に前量の姜黄を溶ク。者ハ淡黄色

を呈ス。

三 雜股蘭四羅度半を溶ク。者ハ殷褐色を呈ス。是に同量の

姜黄を加ス。鮮活ク。黄色を呈ス。

四 サツブグルーンヲ 辛ハリク粹リ製シ。四羅度を焼酒半ヲ五ヲ溶ク

者ハ鮮綠色を呈ス。是に三蹄溶液一二滴を加ス。ハ。帶黄

の活色を現ス。

五 藤黄一羅度半。達刺侃篤六羅度を焼酒二ヲ五ヲ溶ク。者ハ

鮮美の黄金色を呈ス。

此各色料ハ。各別に玻璃壺に貯ヘ。其要キ。所の色に應ジて。

細ク。一て之を假漆ヲ調シ。但シ。其一二滴の増減ノ由て。

多ク。其色を變更ス。もの多ク。假漆の用法左の如シ。○先、全

具ヲ。善く磨刷シて。熾熱ス。鐵板ニ。或ハ炭火上に熾リ。手

を用て把持シ。温度に至らズ。中二拇

厚半拇の刷毛を用て無色又ハ有色の假漆を薄く平等に塗
る。但し屢温^ル屢塗^ル其款^ル所^ノ度^ニ達^セて止^ムを
要^ス也。○之を塗る^ルも能く塵埃を絶^ル地^ノも從事^スへし。
若し其器面に疵痕を生^ルた^ラば再^シ其業を役^シ新に革^ス之
塗^ルへし。即^チ其器の假漆を磨^リ削^リ淨^ク刷^ルる^ル也。舊物を修繕
せしと異^ナら^ズす。○其法刺^ス篤^ク亞^リ斯^ク三^ニ羅^ニ度^ニ和^ル蘭^ノを水一盃に溶
け^テ液^ヲ小^シ其器を煮^ル六^ト數^シ秒^ト時^トして善^ク淨^ク刷^ル。乾
ら^ス後^ニ再^シ前^ノ法^ニ據^テ落^古を塗^ル上^ル也。又^ハ工^匠色^ヲ由^テハ是^レに少
許^ノ血^燭を加^ヘて色^ヲ添^フ者^{アリ}。

百十五

彈力ある假漆の法

絹布及剪^リ縁^ヲ花^ヲ等^ニに塗^ル上^ルも彈^力假^漆ハ。従^テ来^ニ帝^列並^ニ底^ニ那^油
中^ニに溶^和せ^テ會^刺斯^知加^護謨^ヲを用^ヒて塗^ル也。之^ヲを塗^ルる^ル物
ハ長^ク其^ノ用^ヲを成^シ難^シ。又^ハ初^頭より一^種假^漆の不佳^{ナル}本
質^ヲを合^セる^ル故^ニ。或^ハ十^分其^ノ用^ニに供^スる^ルに堪^エざる^ル也。
如^シ今^ハ他^ノの簡^便にして費用^ヲ少^クする^ル一^法を用^ル也。○即^チ尋^常白^膠
を醋^中に溶^カせ^テ之^ヲに^シて。當^時工^匠往^々其^ノ用^ヲを稱^用也。○
製^法細^判せる^ル膠^ヲを醋^中に投^ジ。温^ク溶^カる^ル。冷^定する^ル後^ニ直^ニ
用^ニに供^スる^ルへし。○用^ルに^シて。其^ノ液^ニに臨^時欲^スる^ル所^ノ色^ヲを與^フ
ふ。○此^ノ假^漆ハ價^廉にして。絶^テ腐^敗する^ル事^ナく。亦^速に乾^ク
く^ノ利^{アリ}。但^し膠^ハ固^水に解^易き^ル事^{アリ}故^ニ。濕^潤を

遊くへ。

百十六 鐵器に塗る假漆の法

篩過せし細粉ヲテエンメル。及ハ銀密陀同量ヲ研磨シ。荏油ヲ和シテ。稠厚の塗料ト成シ。帚列並底那を加ヘ。適宜に稀釋シ用也。○此和劑を塗リ多シ鐵器ハ。外氣に曝置シ。或ハ數海水ヲ涵キモ。經年變セルトモトク。

百十七 錫及白金を鍍メルノ法

醫官ボトセルルハ氏ノ深道の鍍法左の如シ。○酸化錫（錫灰）を苛性加里涵メ煮テ。錫及ハ加里の飽和溶液を造リ。而シテ後。清水ヲ以テ其液を稀釋シ。錫の礫屑（カス）を入テ煮テ。銅若クハ黃銅器を其液中ニ投ジルトハ。二三密捩（攪）寫問（攪）に。早已（早く）に。頗（よく）光輝（光）也。

錫を固く鍍著（め）セ。使（し）之（を）取リ。淨洗（洗）シ乾（乾）カス（干）ル（干）。○又蘆魯林白金（消鹽酸）白金一分（を）。太（太）水百分（に）溶和（し）。煮テ。銅若クハ黃銅器（を）投（じ）ル（と）ハ。一二秒時間（に）白金（を）鍍著（め）セ。使（し）洗過（洗）結露土（を）用テ之（を）磨（ぎ）キ。淨洗（洗）シ乾（乾）カス（干）ル（干）。○此法（を）用テ。測量儀器（に）白金（を）鍍（め）シ。鏽（さ）を防（げ）ク（に）極（く）とテ稱用（せ）ル（と）。益（益）含密局（小）。所外（の）大鐘（に）此法（を）施（せ）ル（は）亦必妙（を）トス（ん）。

百十八 汚斑（を）除（く）法

諸般の汚斑（を）除（く）ル（に）ハ。綠石鹼（藥に尋常下品の者）少許（の）研細（食鹽）を和（し）テ。斑上（に）塗リ。一二時（を）經（る）後。先（之）を稀（き）キ。灰汁（小）。

滌ひ。而も後清水スに淨洗せしめ。

百十九

猩紅絨及天鵝絨の汚斑を除く法

セエブコロイド和名ハマナゲシの搾汁に少許の緑石鹼を加へ。此液ヲ用て斑を滌ひ。一日を経るの後再滌ふと一二回ふて。二三日を経るハ其斑全く消えし。

百二十

車旋クルマクワ船フネを治るル法

一葉の厚き無膠紙を取り焼酒ヲに蒸し。之を折重マて。胃部の上ニに巻布し。車船ヲ駕し。燥けハ後潤カせし。

百二十一

黄蜂の螫痛を治るル法

英吉利新聞紙に擦スせし。螫痕を輪管ワザふく堅く握し。二三密扭

核

窩間保持せしめ。其痛及ハ焮腫を消えし。

百二十二

野生の禽畜殺せし者を貯藏スるル法

佛蘭西新聞紙ヲ擦スせし。其内臓を去り。是に代へし小麦を充實せしめ。之を同一く小麦中に埋藏せしめ。一月乃至二月の久を経るも腐敗せず。亦其皮毛剥落せしむる。

百二十三

樹木を害する野獸の患を防く法

犬尿ヲ水ニ和し。樹木の下枝ニ塗ルせし。必兎類其幹の外皮を剥傷スるル患ヲ去し。

百二十四

凍瘡を防く軟膏の法

白蠟ヲ秤シ四分一羅度。鯨腦半羅度。高桃油二勺を茶盞ニ盛ルり。

緩火上に熔和し。火より下して。少許の蕃薇水を除々に滴し
加いつ。手を停め候善く攪混し。冷すに至らば。○此ボマ
アデ軟を。夜間手。或ハ口辱等に塗り。翌朝乾らば。布巾或ハ温
湯に滋潤せし。者を用て拭ひ去らば。

百二十五

酒痕の汚斑を除く法

汚斑の處を一夜間豆。若くハ豌豆の煎汁に浸して後。清水を
用て除々に洗滌せられ。全其痕を脱せ。

百二十六

鐵具に塗る填塞料の法

細粉加爾基一分。細粉酸化滿倦二分に。荏油を和し泥と成せ
る者ハ。鐵具の縫隙裂隙破口を塗るに必需の品とす。○此填

塞料を煖室。火箱等を用て。急速に乾かさ。且堅實と爲さ
と鐵の如し。

百二十七

鐵具に光輝ある黒色を興す法

鐵具に先荏油を薄く適く塗り。之を薪火上。乃至十拇尺
の處に。鐵線を懸けて。烟中に在らしむ。或ハ一時時間の後。又
殆其炭に觸らし。不との處に下垂せしめて保持せしむ。○四
分時間おして。之を冷まし。帝列並底那中に刺し入らしむ。○
是に由て。其黒光仍全らしむ。再之を數密板駕間熾
炭上に致して。後帝列並底那中に湮せしむ。○此法を施せし
者ハ。大氣に中りて。錆化せしむる。亦能く薄き酸精

小觸くも變ぢるゝとなし。○但し。是を行ふに。鍛鐵より
ハ鑄鐵を良とし

百二十八

鐵器を堅剛にする法

此法。細瑣の物件に施す。廢物と為るの患ありて。殊に良
なり。即ち通常冷水に漬する法に代へり。先之を熾紅して。雞子
白を調勻せし水中に刺し入るべし。○蓋。是に由て毫も蒸霧
を發せし。又沸するゝとる。是其雞子白瞬間に凝固し
て。鐵の周圍に結着するゝなり。

百二十九

穀類及蔬菜を播種する法

諸般の試験を以て之を乾しに。種子を暮に方て地に播き。土

を覆はせ。一夜露濕を合^あて。翌朝土を敷け。其益三何
り。第一。種芽を生ずるゝと早く。且速に長し。早乾の時季に在
ても。發熱の期。八日乃至十日を延え。亦禽鳥の害を免るゝと
と多し。○第二。稈莖長く。穂大に。子實も。第三。蕪菁の種子。土蟲
の害を蒙らぬ。

百三十

馬鈴薯を用て錫布水を製する法

馬鈴薯を善く洗ひ。外皮を去り。創^く擦^ら子^しふて細に劑り。濾袋に
て擣搾す。其澄ハ粘糊と為るゝ。其澄ハ即ち錫布水なり。○此
水を用て。絹布の風領^{エラ}。ホウラルト^ト。木^キ印^イ。廢^ヘに^ニ症^シを^ヲ類^ル。葉^ハ大^キ小^ナ等^ヲを
滌^ハは。妙に其色を消褪せしめて。復從前の張力及び光澤を

生せしむ。○概一雙の莫大小を洗ふ。馬鈴薯二箇を月
と足る。但し其赤斑ある者を用ふと不可。然るは其
所洗の物。赤色を帯ふの恐あり。

百三十一

透明なる錫布を製する法

尋常堅固錫布（白ブリスタルセーブ）
英吉利ブリスタル布より出る白錫布を薄く鈍りて乾かし。細削し。其細屑二斤（舊秤）。酒精（三十六度者）二斤半を調し。微温に溶和して。型模小精を。○若し之を各色に染成さんと欲せば。豫其酒精に。随意要する所の色料を加ふ。但し。最初に少許の香水を和せしを良とす。○爾後此を適宜の大きに裁断し。各種の型に致さへし。○此錫布は。乾く

に隨て。頗る其容を縮むる者なり。

百三十二

獸毛。或植材類の腐朽を防ぎ久きに堪えしむる法。

此適法ハ。鹽酸亞鉛を用ひに在り。○亞鉛塩舊秤一斤に。太水十二盃を和し。乃ち溶液を。罌桶の三分二に充たし。乃ち至十二時間鎮定して後。木材。利諾。帆布。繩索。苧麻。毛髮。及び其
他貯藏久しきに堪へしむるを要する物件を其中に漬し。極めて之を飽充せしむ。○木材ハ。其大小に隨て液中に漬せしむと十日。或ハ十二日の後。空氣通暢よして。遮覆せしむ。地位
小乾りし。毛髮。苧麻の物件ハ。四十八時の後。同く通暢遮覆

の處に乾かしをへし。○若し繩索著しく粗大なる者又在てハ之を縛りし前に先其苧麻若くハ細糸を液中に漬し。乾し後各様に打縛しをまとむ。○船舶家屋の造築しを殊に荷筒或ハ害木等の如き。真に水濕し觸り處り此材を用るく妙なり。

百三十三

傳染病を豫防する法

杜松實軽く挫 二羅度丁子 半羅度薄荷葉 一握を蓋覆せし。瓷鍋小入を煮下煮し。細布をし漉過す。○傳染病を受たる患者を看護する者。此煎汁を用て日に數次合嗽し。及び兩手に塗擦し。又ハ布巾を煮して時々之を嗅けハ。其瘴氣を

蒙り去るとなり。○又醋一彬駕に丁子半羅度を瓷鍋小入を蓋覆せし。炭火上より緩々に煮せハ。室内の瘴氣を驅りし。

百三十四

苧麻の藥能する説

苧麻ハ普通雜草中より屬し。嫌ハ厭ふべき者なり。對症に應用して特絶の効あり。故に實に之を藥草中の一に算して可なり。○一日に此草四分彬駕を濃煎。或ハ濃浸して内服せしハ。強壯保固し。稀煎稀浸ハ大便を滑利し。殊に水液を調和し。開達疏泄し。血液を鮮活し。水脈の閉塞を開く。○此搾汁を一匙宛内服せしハ。下血を鎮靜するの殊効を奏し。疔毒或ハ卷布に調し外用せしハ。爛衝を消し。腫瘍を解

き。咽喉燉衝。及び咽喉諸病。小者。頸上に卷布。同時に之を
用て含嗽せし等。殊に妙功有り。

百三十五

木及石の縫塞料の法

木炭

絶細に研末
篩過せし者

四百斤。風化石灰

絶細篩過
せし者

百斤を調和し。

是に巴麻油を加へ。

臼小て搗煉し。適宜の稠なる泥を成るを
度とす。

或ハ石灰

を代へて搗細。義布硫酸加を用ひ。巴麻油を代へて

石腦油。帝列並底那。諸等を用ひ可なり。

此縫塞料ハ。温よ糸一錠を用て塗るへし。

百三十六

鴿をして好て巴麻棲房棲房に歸らしむる法

スビイキ油。丁子油。過泥子油を調和して。其棲房中の處々に
散濺し。周邊に塗抹せしハ。鴿好んで其房に出入棲宿して。其
居を移さずとす。又過泥子。小茴香。ヘルド芳草。タイムの草。各一
匙を研末し。黄膠に調して小丸子を造り。房中置けハ。鴿
の心氣を奪ふべき香餌と為り。鴿一。此餌を食へハ。曾て其房
を離れ去らざるとす。又縱令。數里外に移りし也。若くハ賣送
るとも。其鴿早く已に其香氣を知りて。他の鴿伴を誘ひ歸る
に至る。

百三十七

氣燈盤カスネを用る蒸料の法

亞爾箇兒。帝列並底那油。各適宜を合し。善く振盪し。鎮定せし

六と少時ふして。亞爾箇兒太其八分一の帝列並底那油に
 抱合せ。乃之を傾け移して用て供也。
 帝列並底那油の亞爾箇兒中に溶解せしむの度ハ。原亞爾箇兒
 の強弱に關係也。即其最強度の者ヲ右てハ。四分一量の帝列
 並底那油を溶解して。全く澄亮の溶液を得へし。○其燈盤ハ。經
 半拇或ハ四分三拇の管子に。解綻せし吉貝絮の心を挿し。其
 管此溶液を盛し。槽中より通入也。管の上部に銅の圓片を蓋
 帽狀に覆ひ螺位し。其周圍に數孔の細脈を穿開也。○さて。其
 上部酒精炎の為に熾熱せし。此溶液の蒸氣燈心を貫き冲
 騰し。細脈を通つて蒸へ。一箇の氣燈の如く一般に。五六若く

ハ多くの火炎を照し來る。○爾に其燈心ハ。常に其液に浸
 潤し。且火炎は觸せしを以て。燒燼せしむの患なり。
 此和劑ハアルガント 埃吉利人名の千七百八十三年倫の燈
 子裝し。澄明ふして大に。且爛燦たる光炎を現也。○此炎ハ。油
 炎よりも其勢盛ふして。而も亮も蒸烟を費せしむとす。
 此和劑の光輝ハ。鯨腦燭の光輝に比せしむ。稍劣きり。○燈心ハ。
 焚燃の為に黒焦せし。且燈盤濕潤せし。汚染せし。○燈心ハ。絲
 を用るを良し。石綿を以て是に代也。其功殊に卓
 絶なり。

百三十八

黄金を淨潔せし法

汗或ハ他の臟垢の為に汚きたる金鍊。金環。金鍼等の物件を
淨潔せしむ。ふた。熱せし苛性加里酒を用也。○或ハ其物件
を礬砂の溶液中に煮もも可なり。然もとも。加里酒ハ汚穢を
除くふと殊に速なるの利有り。○強烈なる酒醋を用て。他の
不潔の汚物を洗除し得へし。○又極えて稀薄なる硝酸を用
るも妙なり。但し。其液に毫も海鹽。鹽酸。礬砂等を含まざる者
を擇ひ用ゆへし。然るされハ。是より為に一種の王水アサツキを生じて。
其全の一分を溶解せし。の害有り。

